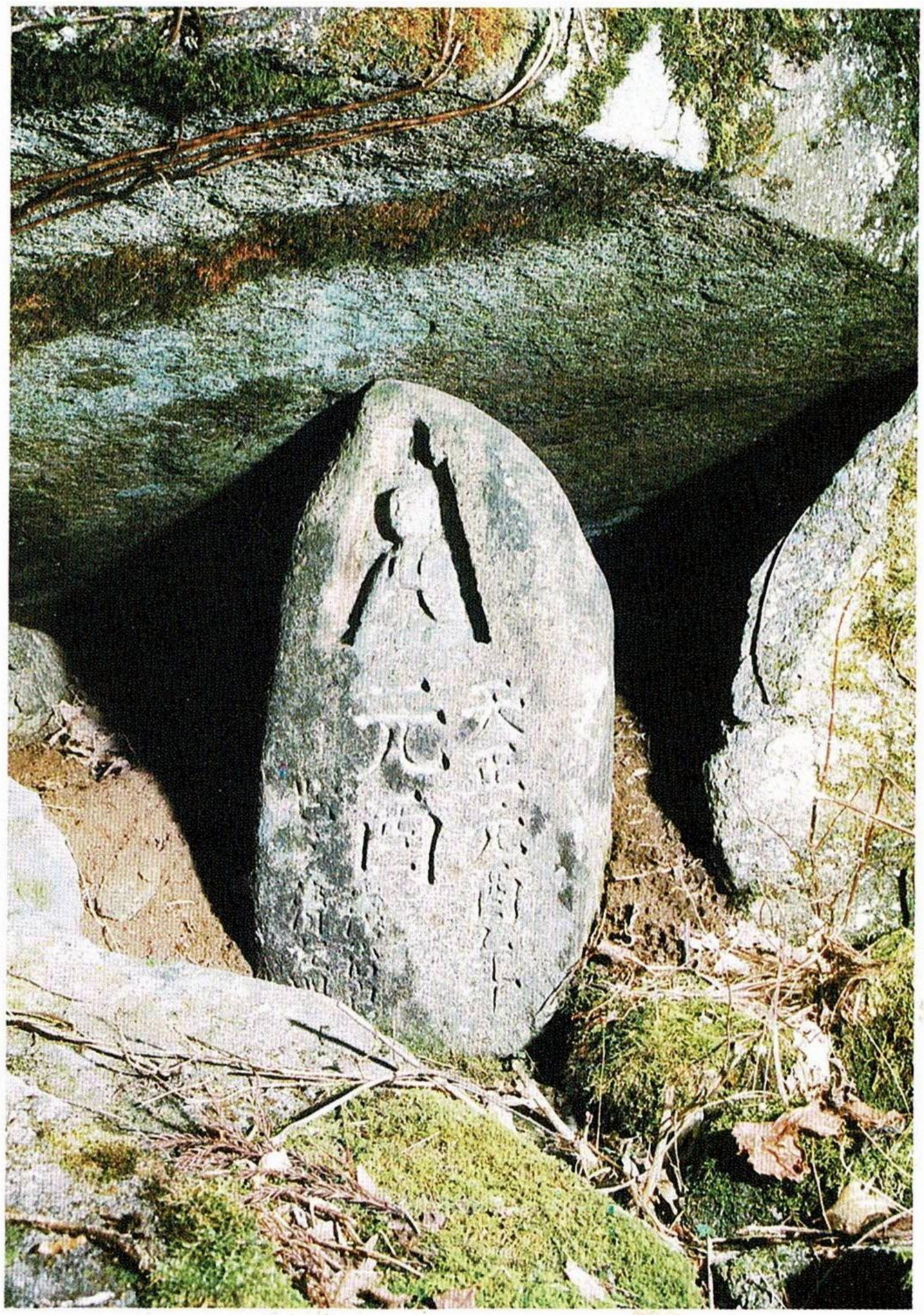
町制施行３５周年記念
文化財シリーズ第２集

ふるさとの文化財



カンカケ国有林 石仏

波賀町教育委員会

第2集　発刊のことば

町制30周年記念事業のひとつとして、「波賀町指定文化財」を決定。それを収録して出版した第１集の冊子は昭和62年３月に町内各家庭に配布いたしました。

時は流れて、本年は35周年を迎えました。その記念事業の一環として、ここに第２集「ふるさとの文化財」の冊子を皆様の許にお届けいたします。

私達の里波賀も、自然を中心に昔の姿を留めているとはいえ時代の流れは激しく、生活様式の変遷のリズムの中に人々の生活の営みも大きく変わって参りました。四季折々に表情の豊かさを誇ってきた原始林の山々もいつしか杉・桧の人工林に変わり、落葉を踏みしめあえぎあえぎ登った山の細道には林道が作られ、田を結ぶ土の細道も車の往き来する農道に変貌するなど、生活の便利さとか豊かさを求める人間の生活は自然の面影を次ぎ次ぎに変容させています。

だが、立ち止まって見ると、動き続ける波賀の山野の一隅にひっそりと佇み、風雨の中にも黙した姿のままで坐す石仏の姿に接します。また、名もなき仏師の手で刻まれたであろう温顔の仏像の御堂に入ると、お花とともに新しい線香の香の漂う中に、今に続く信仰の深さと強さに打たれる時もあります。

長い波賀の地と人々の〝くらし〟を見続け、護り続けて下さった様々の像（すがた）を私達は今留めておかなければやがて失なわれてしまうのではないかと考えました。滅多に人々が訪ずれることのない深い山奥にも、谷川沿いの雑草木の下にも祖先の心が静かにひそかに眠っています。

町文化財審議委員の方々に、その「在り家」を2年に亘って根気よく探索し調査して頂きました。委員の方々も『今見つけ記録しなければ忘れられ埋もれてしまう』という危機感をもって、一生懸命に取り組んで下さいました。ご労苦深謝いたします。

その上、第1集の調査の際ご指導頂いた神戸市立博物館副館長の檀上重光先生、県立博物館学芸員の神戸佳文先生の調査の記録もお許しを得て収録させて頂きました上ご指導を賜わり厚くお礼申し上げます。

お手許に届いた際、集落により欠落したもの、由来等に間違いのあるものも出てくるかとも存じますがなにとぞご海容下さい。また、お地蔵様の祈りのエプロンなどは、本来文化財としてははずした上で写すべきものであるということですが、生活史としてのとらえ方をさせて頂きましたのでその点申し添えます。

最後に、２か年に亘って陰のご協力を賜わった各区長さんを初め有志の方々、その他関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成３年３月31日

波賀町教育長　**中　原　哲　男**

「ふるさとの文化財」

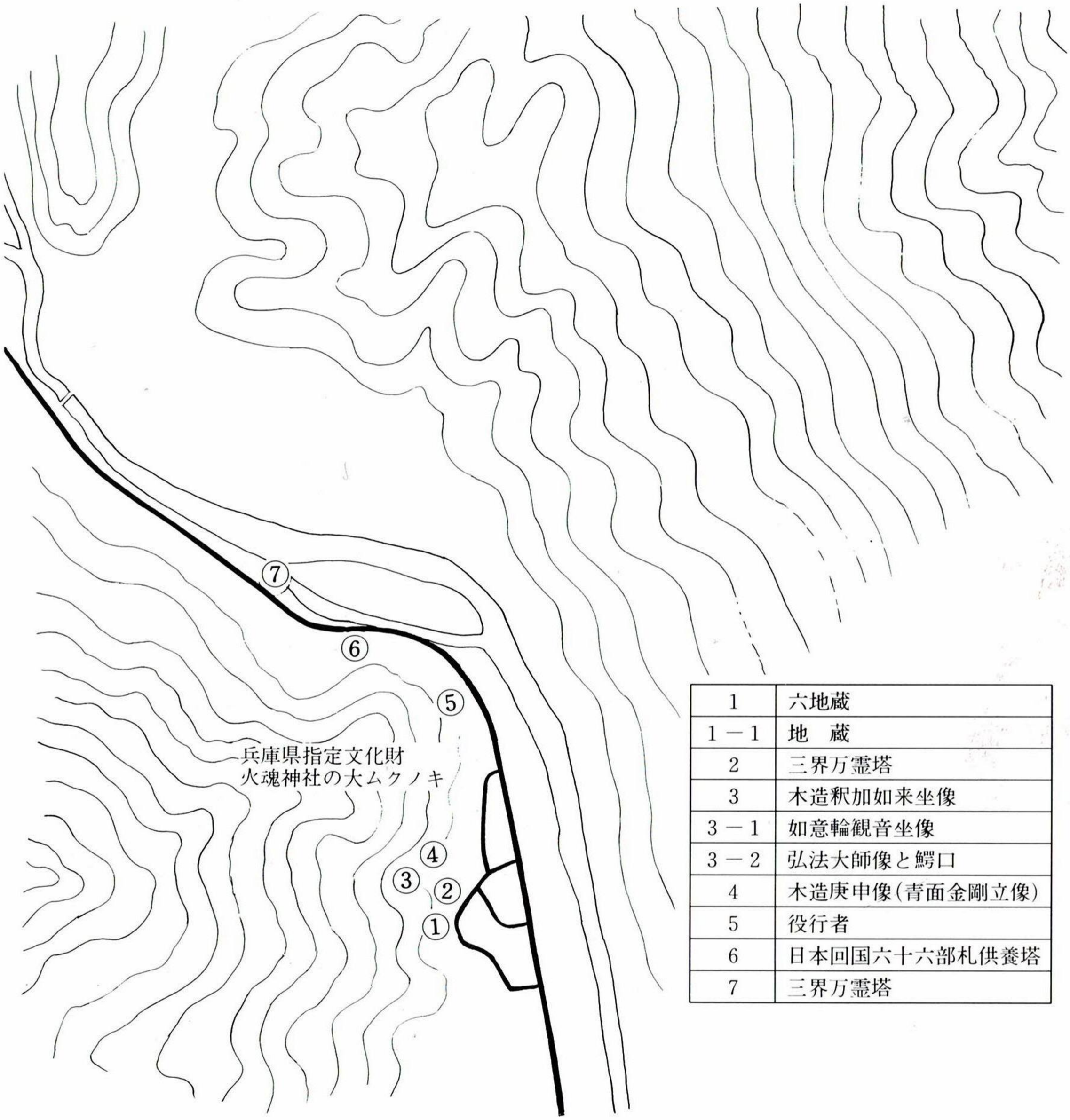
もくじ

（同じ所にある〈例2―1〉ものは1件とした。）

（小字名）	（件数）	（ページ）
日見谷	（7件）	1
谷	（14件）	7
小野	（6件）	19
今市	（2件）	25
安賀	（5件）	27
斉木一区	（10件）	31
斉木二区	（7件）	39
斉木三区	（5件）	45
有賀	（8件）	49
上野	（10件）	57
水谷	（5件）	63
皆木	（5件）	71
飯見	（4件）	77
野尻	（3件）	81
原有賀・原	（11件）	85
音水	（1件）	93
引原	（8件）	95
鹿伏	（7件）	101
戸倉	（3件）	107
道谷	（8件）	109
波賀町全図		115
元号西暦対照表		116
あとがき		

日　見　谷

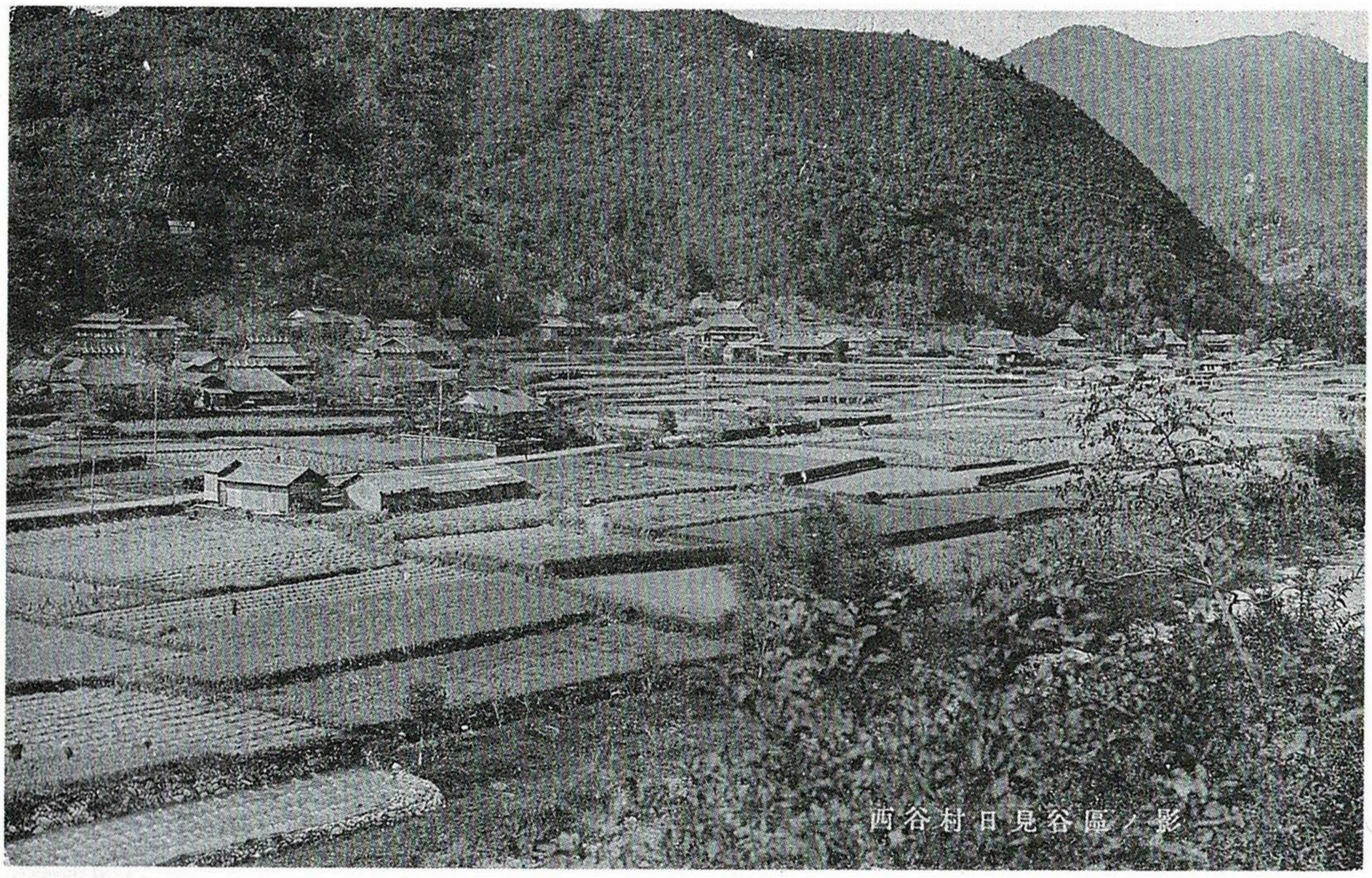
日見谷地区　所在位置図



1	六地蔵
1－1	地　蔵
2	三界万霊塔
3	木造釈加如来坐像
3－1	如意輪観音坐像
3－2	弘法大師像と鰐口
4	木造庚申像(青面金剛立像)
5	役行者
6	日本回国六十六部札供養塔
7	三界万霊塔

日　見　谷

（想い出）



（阪本唯夫氏提供）
日見谷～皆木

六　地　蔵

写真　№1
場　　所　日見谷公民館前
造立時期　江戸時代中期（1750年頃）
管 理 者　日見谷部落

物件にまつわる話

地蔵さんの前に「御高札所（ごこうさっしょ）」と記入された札が立っている。これは武家時代の法度命令などを書いて人目を引く所にかかげられたところから、昔はここが村の中心であったことと思われる。

地　　蔵

写真　№1－1
場　　所　日見谷公民館前
六地蔵と並立（へいりつ）
造立時期　宝暦８年（1758年）寅11月24日
管 理 者　日見谷部落

物件にまつわる話

六地蔵さんと並んで建てられ、前にある御高札所の札より推察して、ここが村の中心であったと思われる。

三界万霊塔（さんがいばんれいとう）

写真　№.2

場　　所　日見谷公民館の南

造立時期　正徳（しょうとく）6年（1716年7月7日）

管 理 者　日見谷部落

物件にまつわる話

三界万物の霊の供養（くよう）を意味するといわれる。昔の旧道端に建てられている。

木造釈加如来坐像（しゃかにょらい）

写真　№.3

場　　所　日見谷部落の裏山
赤山観音堂内

建立時期　天正時代（1573年～1592年）

管 理 者　日見谷部落

物件にまつわる話

当地に疫病が流行しその難病の平癒（へいゆ）を祈願（きがん）して救ってもらったと伝えられる。

現在も盆の17日に、昼は数珠（じゅず）廻しと、夜は盆踊りを行ない、部落の安泰（あんたい）を願っている。

如意輪(にょいりん)観音坐像

写真　№3－1

場　　所　日見谷部落の赤山観音堂内

建立時期　天正時代（1590年）年頃

管 理 者　日見谷部落

物件にまつわる話

ふつう六臂(手)で表わされる。意のままに説法を行い、六道の衆生を救うとされる観音である。

弘法大師像と鰐口(わにぐち)

写真　№3－2

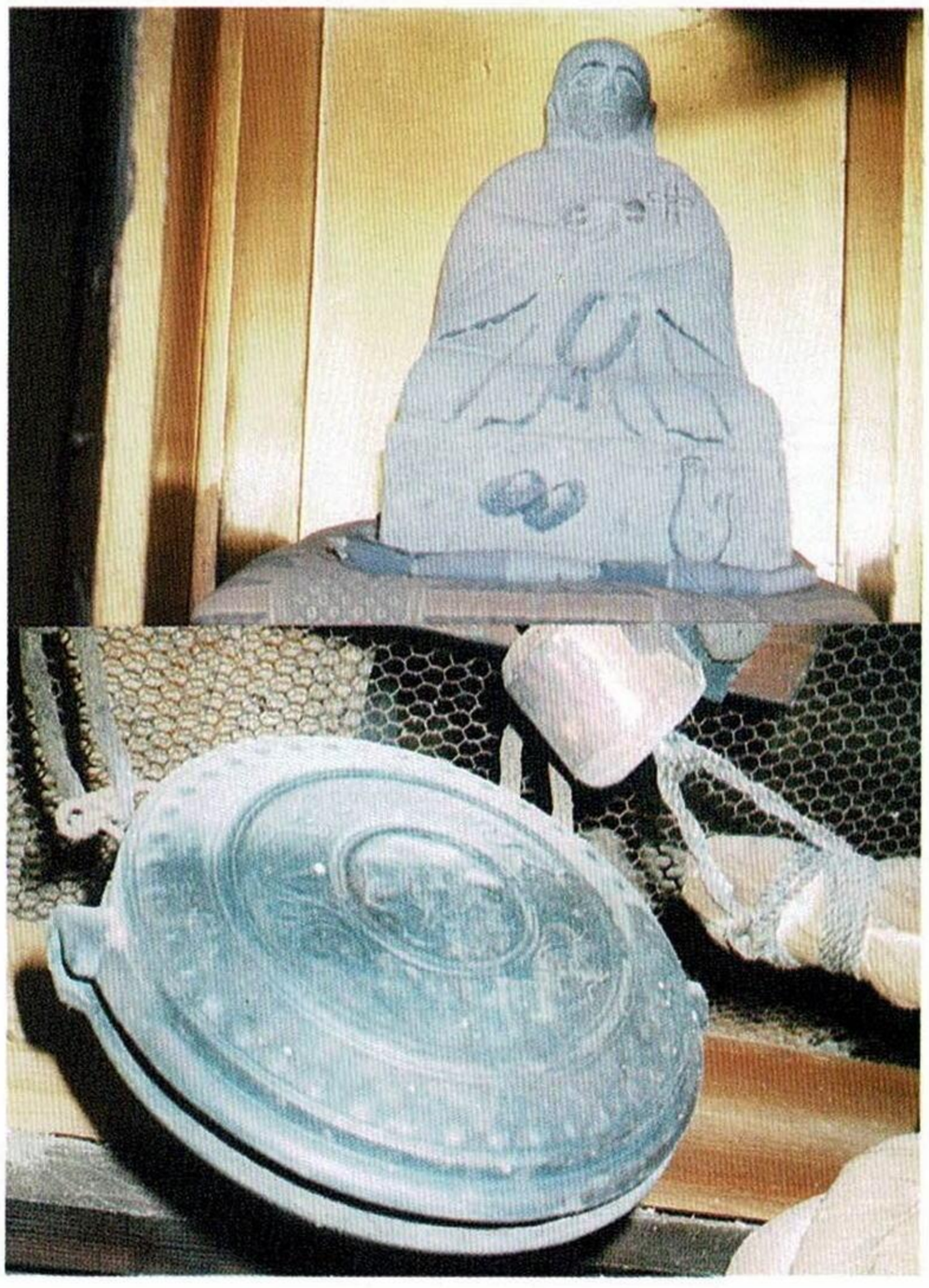
場　　所　日見谷部落の赤山観音堂内

造立時期　江戸以降

管 理 者　日見谷部落

物件にまつわる話

鰐口には、元禄5年9月吉日の刻銘がある。



木造庚申像（青面金剛立像）

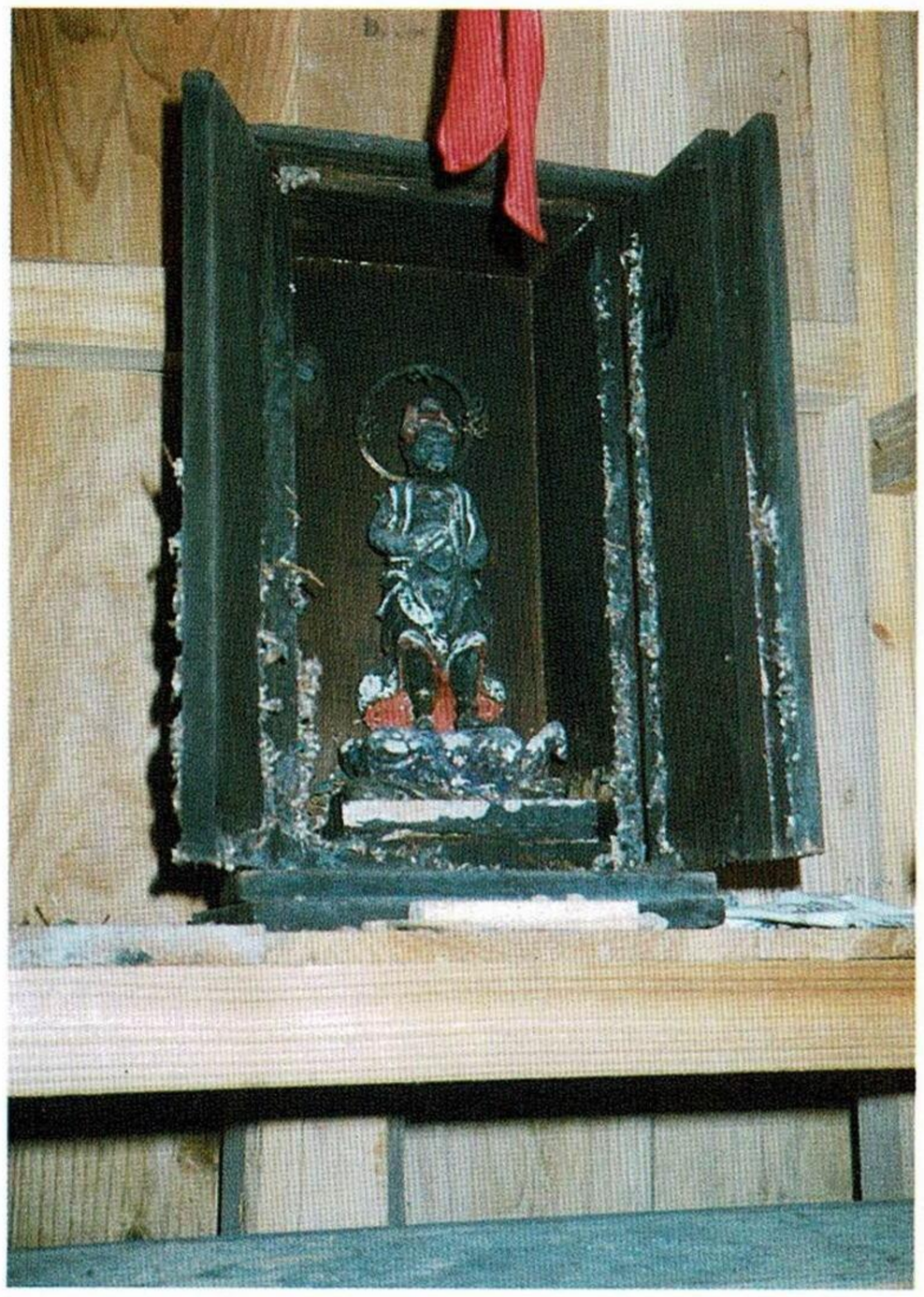


写真　No.4
場　　所　日見谷部落の観音堂の下
建立時期　江戸時代末期
管 理 者　日見谷部落

物件にまつわる話

庚申信仰は、人の身体の中に三尸の虫がいて庚申の夜睡眠中に抜け出し、天に上って天帝にその人の罪科を報告するといわれ、庚申の夜は眠らずに修業したと伝えられている。

役行者

写真　No.5
場　　所　日見谷部落の上端、国道沿い
造立時期　安政７年（1860年）４月
管 理 者　日見谷部落

物件にまつわる話

建立者は当村廣吉氏（穂前紀行氏の先祖）である。

岩からしたたる水を飲むと歯痛が治ったので、歯痛の神様として建立したとの伝説がある。

日本回国六十六部札供養塔

写真　*No.6*

場　　所　日見谷部落の波賀自動車の南側100*m*

造立時期　天明（めい）元年（1781年）7月

管 理 者　日見谷部落

物件にまつわる話

この付近は岩場が突出（とっしゅつ）して交通困難な所であったので、六十六部（回国巡礼者）が岩を割り、のみで削って道をつけた記念に建てた碑と言われている。

又、一説には当時、食物が無く餓死する人、離村する人があった。その為餓死した人の霊を慰める為の供養塔とも言われている。

三界万霊塔

写真　*No.7*

場　　所　日見谷部落の大川井口

造立時期　天保3年（1832年）

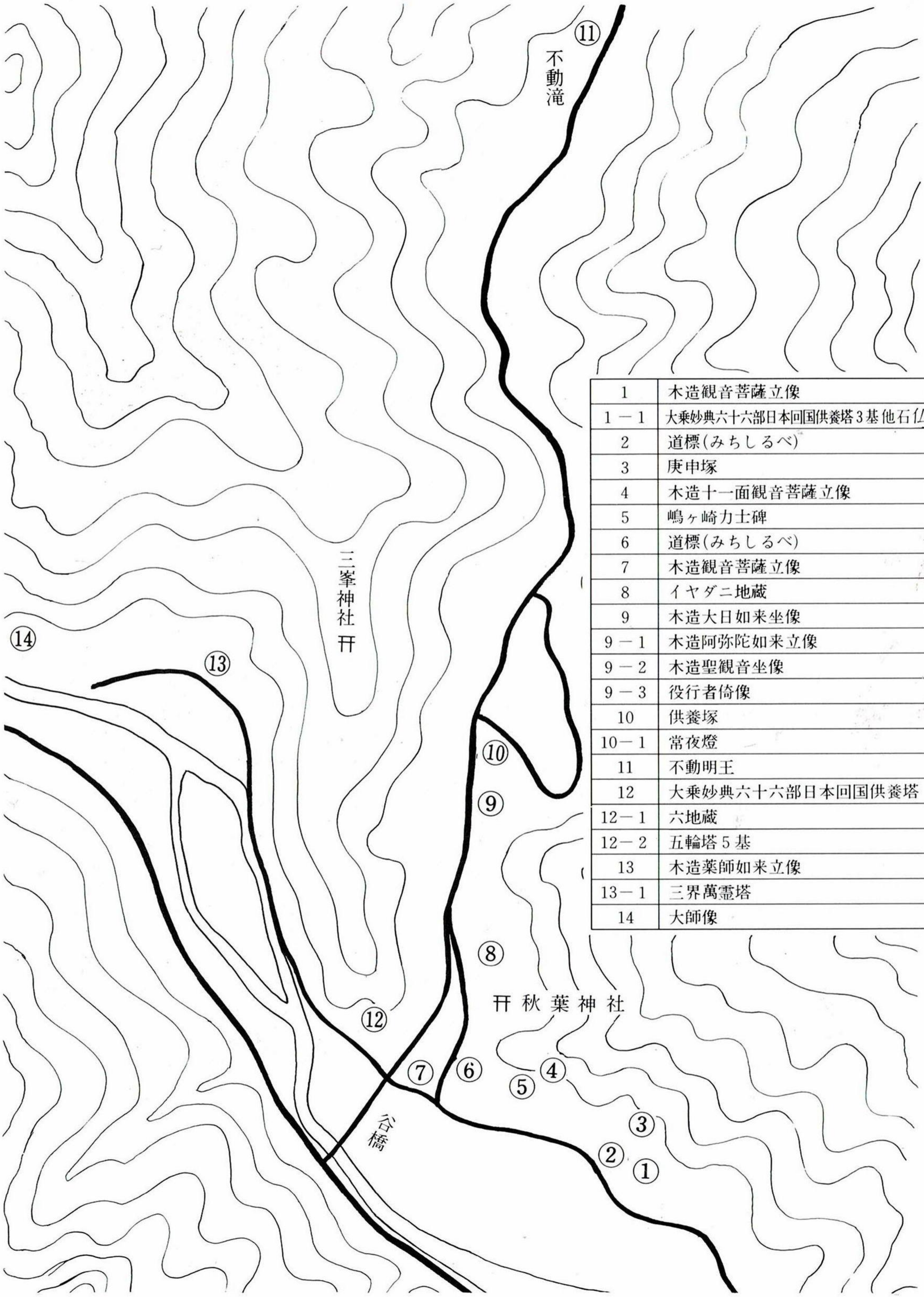
管 理 者　日見谷、杉田部落

物件にまつわる話

井ぜきの安全と水害等を供養して建てられたもの。内一基（いっき）は天保3年、災害のため破損し、再建されている。

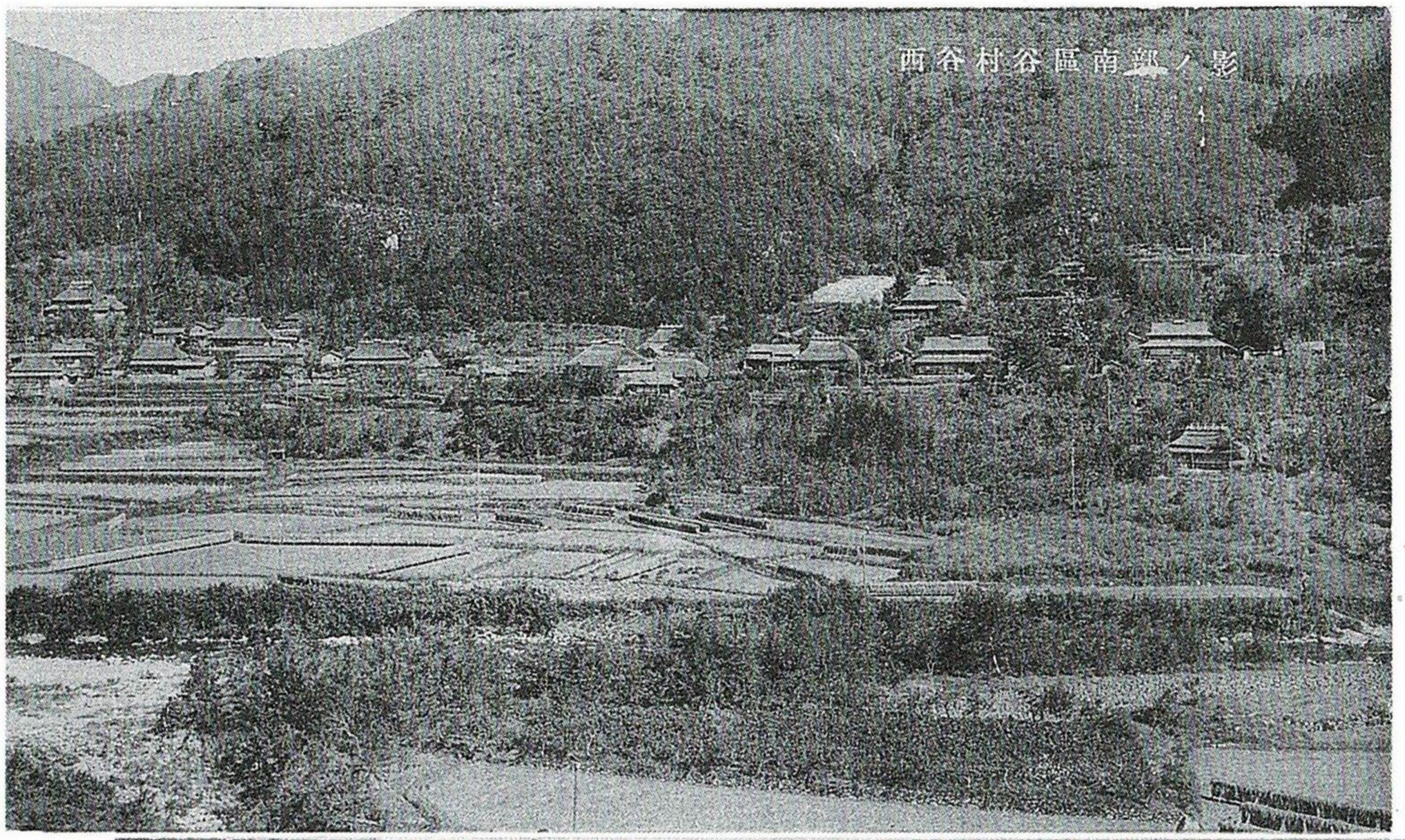
谷

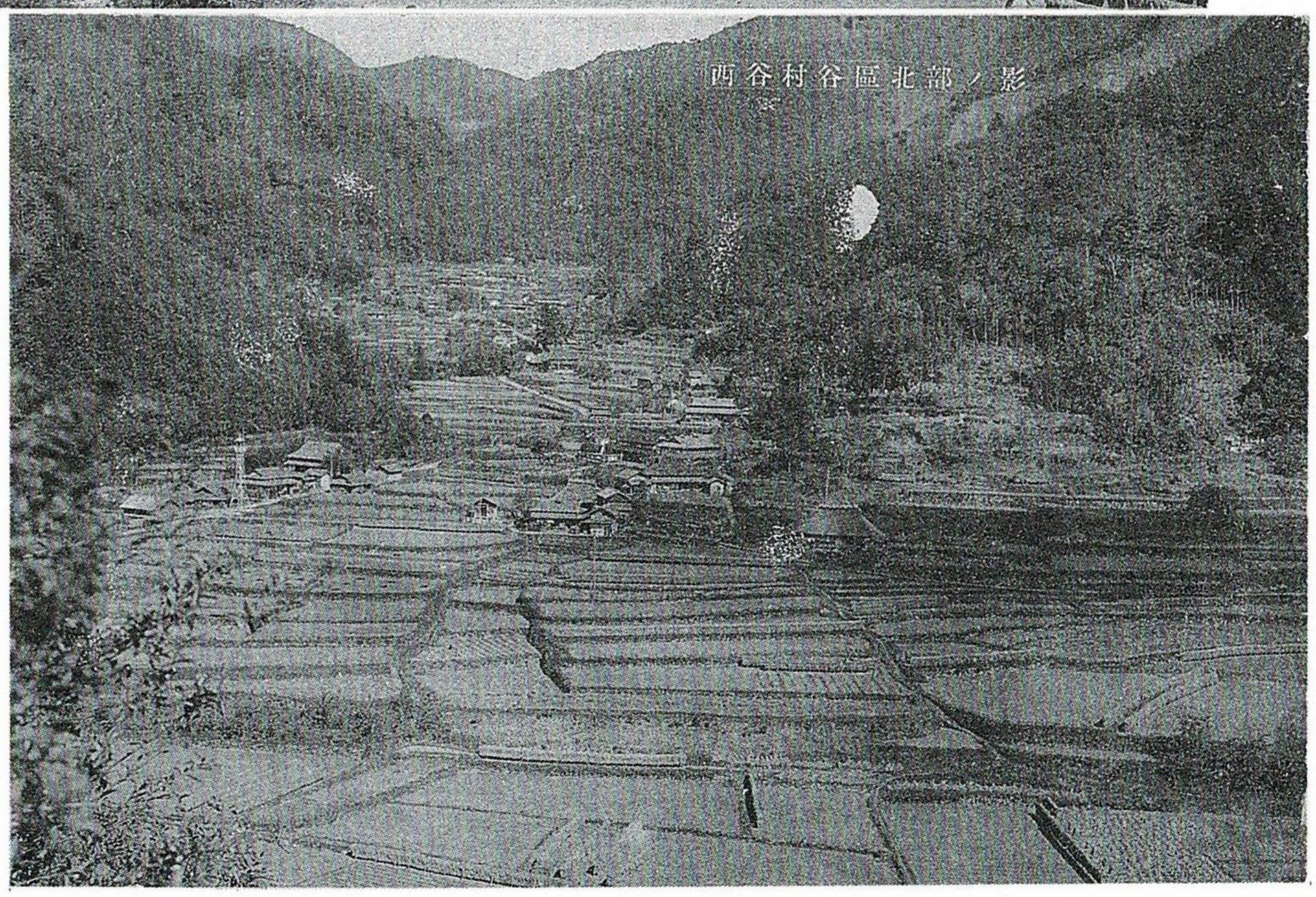
谷地区　所在位置図



1	木造観音菩薩立像
1－1	大乗妙典六十六部日本回国供養塔3基他石仏
2	道標(みちしるべ)
3	庚申塚
4	木造十一面観音菩薩立像
5	嶋ヶ崎力士碑
6	道標(みちしるべ)
7	木造観音菩薩立像
8	イヤダニ地蔵
9	木造大日如来坐像
9－1	木造阿弥陀如来立像
9－2	木造聖観音坐像
9－3	役行者倚像
10	供養塚
10－1	常夜燈
11	不動明王
12	大乗妙典六十六部日本回国供養塔
12－1	六地蔵
12－2	五輪塔5基
13	木造薬師如来立像
13－1	三界萬霊塔
14	大師像

谷





木造観音菩薩立像

写真　№1

場　　所　谷部落（下谷）
米沢良一氏宅の裏

建立時期　江戸時代中期

管 理 者　下谷地区中

物件にまつわる話

享保（きょうほう）の頃（1716年～1737年）集中豪雨があり、裏山が山津波となった。その時観音様が村人の身代りになられて網干の沖まで流されたという。

ある日漁師が沖で輝くものがあるので近づいてみると観音様であった。この話を聞いた村人が迎えに行きお祀（まつ）りしたという。

大乗妙典六十六部日本回国供養塔3基外石仏

写真　№1－1

場　　所　谷部落（下谷）
米沢良一氏宅の裏

造立時期　寛政８年(1796年)
寛政11年(1799年)
天保８年(1837年)

管 理 者　下谷中

物件にまつわる話

天明の大飢饉（ききん）（1782年）後食べ物も少なく、病人や死亡する人も多いので、村人の安泰（たい）を祈り供養をされた。又、道行く人々の安全をお祈りした。

道標（みちしるべ）

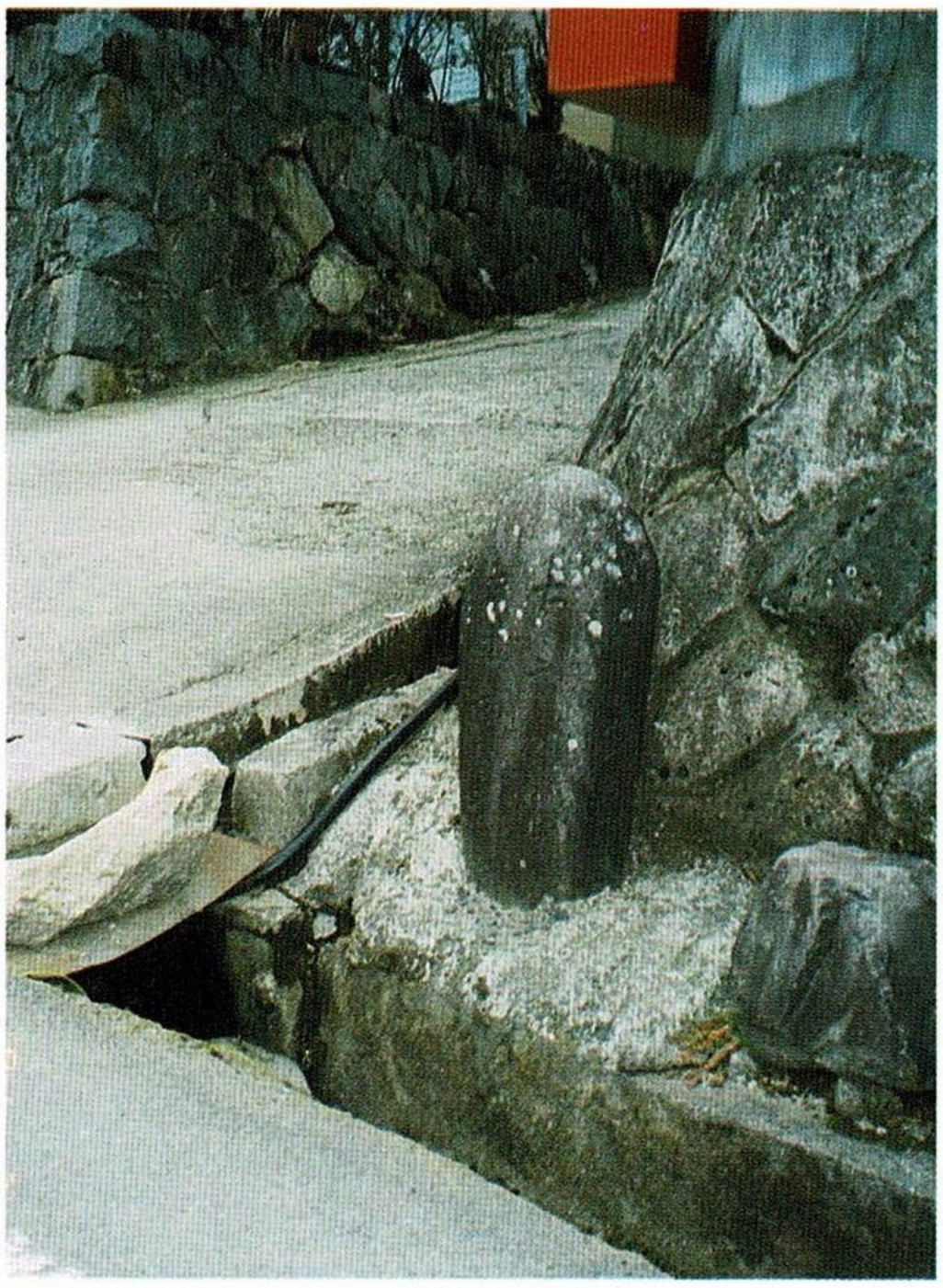


写真　No.2

場　　所　谷部落（下谷）
尾家好一氏宅の前

建造時期　明治41年（1908年）10月

管 理 者　下谷中

物件にまつわる話

左あわしま　右まがり

昔は上の旧道端にあったが、道路の改修により現在のところへ移転している。

庚 申 塚

写真　No.3

場　　所　谷部落（下谷）
米沢徹氏宅の上

造立時期　享保元年（1716年）9月吉日

管 理 者　大島茂男

物件にまつわる話

庚申信仰は、人の身体の中に三尸（さんし）の虫がいて庚申の夜睡眠中に抜け出し、天に上って天帝にその人の罪科（ざいか）を報告するといわれ、庚申の夜は眠らずに修業したと伝えられている。

三尸の虫とは上尸は人の頭に居て目を悪くし顔に皺を作り、髪の色を白くする。中尸は腸の中に居て五臓を損なわし、飲食を好む。下尸は足に居て命を奪い精を悩ますといわれる。しかし庚申の夜、徹夜して祈れば災いを転じて福となるといわれる。

木造十一面観音菩薩立像

写真　No.4
場　　所　谷部落（下谷）
中尾秀哉氏宅の横
建立時期　戦国時代
管 理 者　中尾秀哉

物件にまつわる話

桜王山、谷寺として祭られていたが秀吉により天正８年頃焼きはらわれ、裏山に逃げたが多くは死亡。その後、日見谷を経て慶長元年（1596年）西安積村に普門寺として再建されたという。

嶋ヶ崎力士碑

写真　No.5
場　　所　谷部落（下谷）
小阪紘司氏宅の裏
造立時期　明治31年10月
管 理 者　大島　弘

物件にまつわる話

大島嘉太郎氏は地方力士として名が高く門弟一同によりこれを建てた。

元は馬橋のところにあったが、現在地に移動

道標（みちしるべ）

写真　No.6

場　　所　谷部落（轟）
小倉重夫氏宅の横

建造時期　江戸中期

管 理 者　小阪　尚

物件にまつわる話

昔は一宮町深河谷へ山越しができたので「左うえの　上ふかだに　右まがり」の三差路。現在は少し西より、深河谷への林道が工事中であり、又、東山を越えて上野へ自動車で行くことが出来る。

道しるべは深河谷越しに１ヶ所、東山に３ヶ所ある。

木造観音菩薩立像

写真　No.7

場　　所　谷部落（轟）
保杉栄要氏宅の横

建立時期　観音堂改築後仏像は新しく買入れた。

管 理 者　轟地区中

物件にまつわる話

旧道にそって馬洗池のそばにあったが、昭和初期に現地へ移転。昭和60年改築する。旧観音堂の隣りに馬洗い池があり、毎年八幡神社の御輿に参列する神馬を洗う事になっている。

イヤダニ地蔵

写真　No.8
場　　所　谷部落（轟）
清水千代治氏
宅裏
造立時期　天明８年
（1788年）
管 理 者　坂本誉雄（たかお）

物件にまつわる話

四国より修業巡礼中の源光大阿弥陀利和尚（おしょう）が天明８年８月、清水千代治さん宅で死亡された。その時胸にかけていた仏と和尚の遺品は共に清水さん宅にお祀りされている。又和尚は当地へ四国の焼畑農業を伝えたという。

木造大日如来坐像

写真　No.9
場　　所　谷部落（奥谷）
樫谷麻夫氏宅前、大日堂内
建立時期　江戸時代
所 有 者　安養寺
管 理 者　奥谷中

物件にまつわる話

昔は谷中の村人が百姓の守り本尊として信仰をしてきたが、時代の流れにより現在は奥谷の人々によりお祀りされている。
毎月一回安養寺住職により寺小屋がおこなわれ、子供のお参りが多い。又、毎月20日をお参りの日と定めて隣保集会の場となっている。

木造阿弥陀如来立像

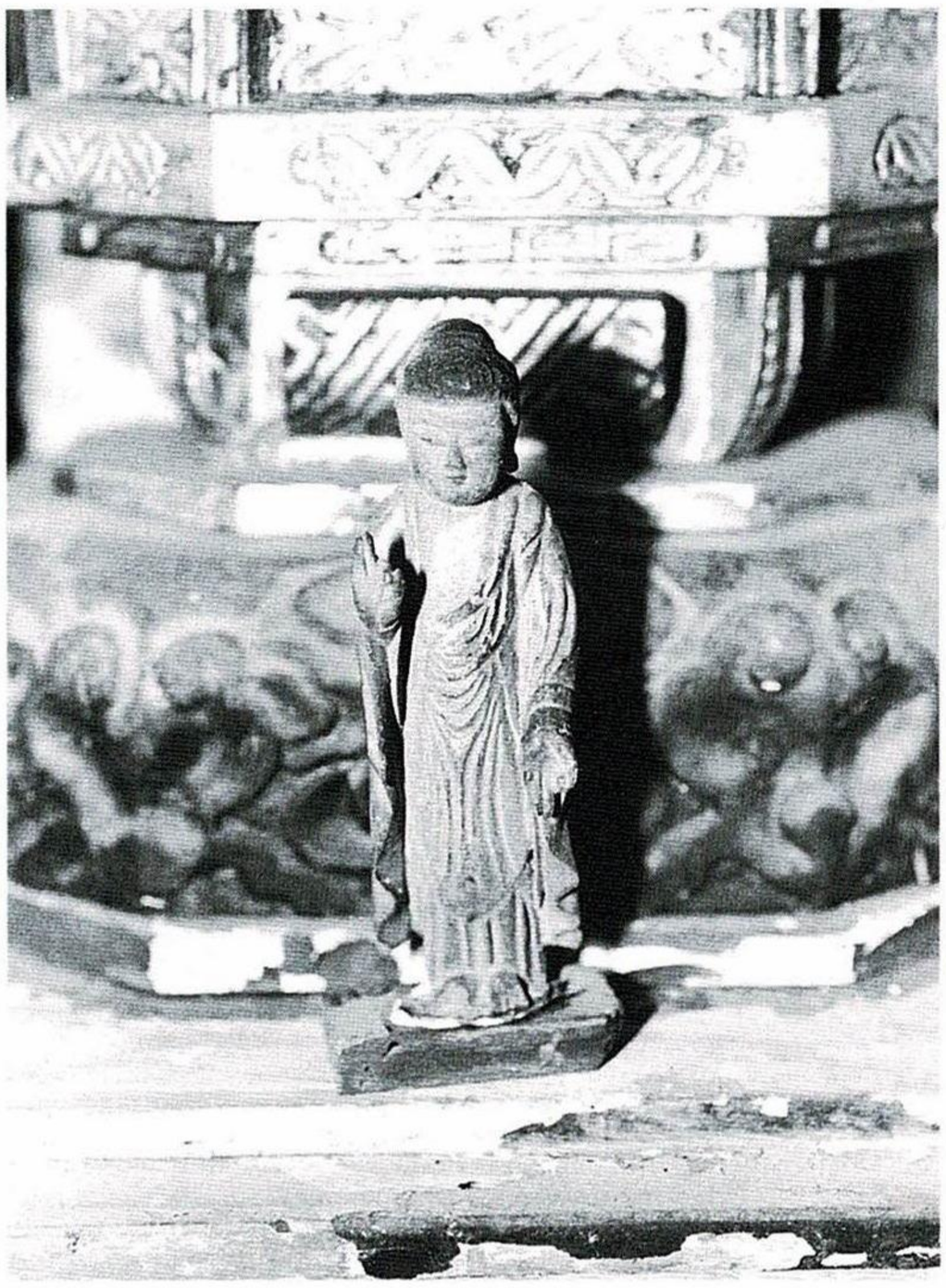


写真　№9－1
場　　所　谷部落の大日堂内
建立時期　江戸時代
所 有 者　安養寺
管 理 者　奥谷中

物件にまつわる話

一木造り。漆箔

来迎印を示す。小像で、おそらく個人の念持仏であったとおもわれる。

極楽浄土に往生が出来るという。無量寿は仏および仏のいる国の人々の生命が永遠で、無量光は仏の放つ光明はすべてにいきわたり、さえぎるものはなく人々をうけ入れることをいう。その仏が阿弥陀仏である。

木造聖観音坐像

写真　№9－2
場　　所　谷部落の大日堂
建立時期　江戸時代
所 有 者　安養寺
管 理 者　奥谷中

物件にまつわる話

肉身は墨、衣は金泥塗り。

観音はあらゆる厄難を救い、求めるものをあたえ、仏身、童女、竜など33種に身をかえて人々を救うとされる。聖観音を根本総体として千手、十一面、如意輪、馬頭等数多くの観音がある。

えんのぎょうじゃ　い

役行者倚像

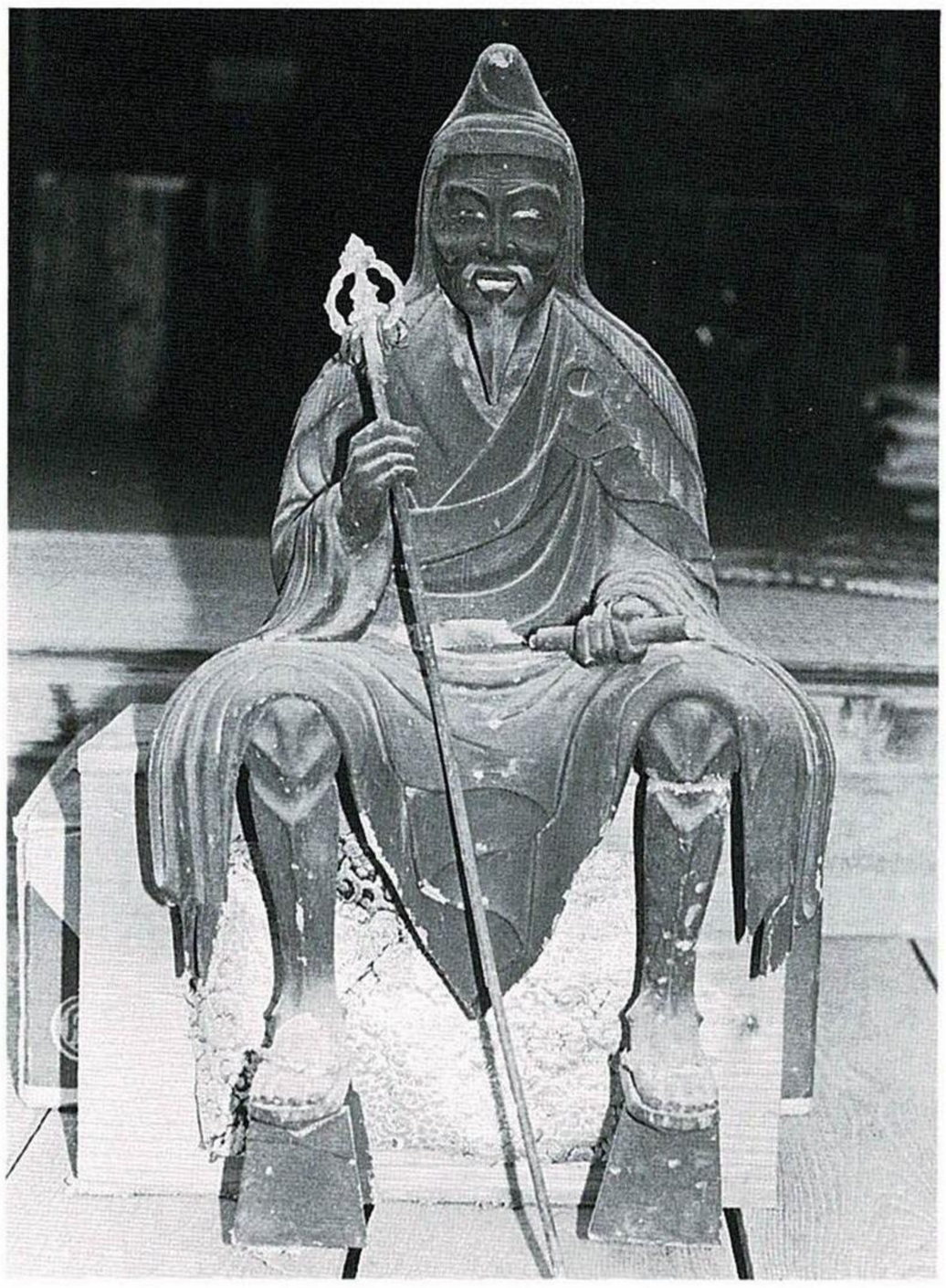


写真　№9－3

場　　所　谷部落の大日堂内

建立時期　江戸時代

所 有 者　安養寺

管 理 者　奥谷中

物件にまつわる話

役行者（えんのぎょうじゃ）は修験道（しゅけんどう）の祖（そ）といわれ、護摩（ごま）を焚（た）いて呪文（じゅもん）をとなえ祈祷（きとう）を行い神験（神のお告げ）を修得した山伏。仏教の信仰からお祀りしたものと思われる。

供　養　塚

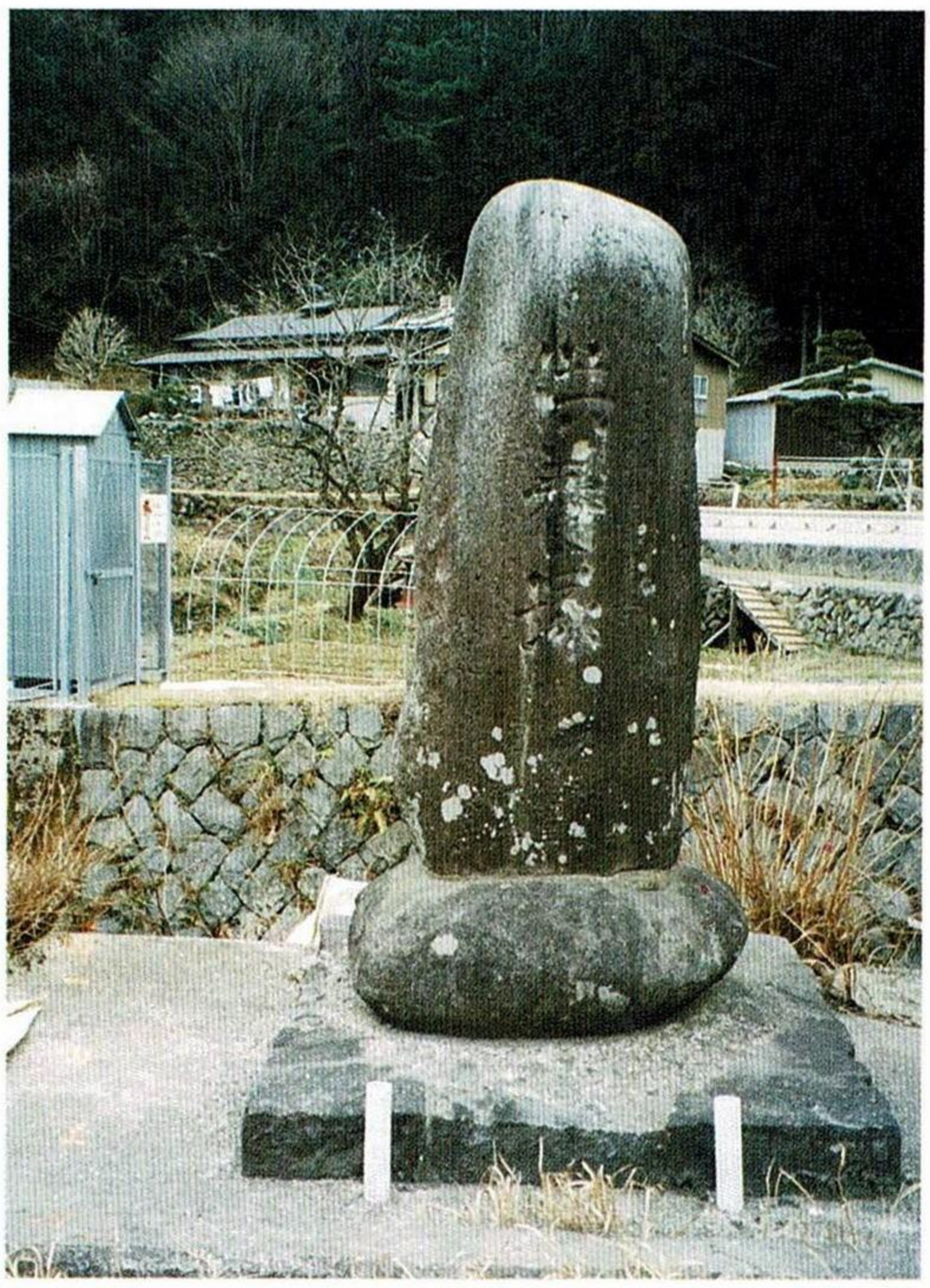


写真　№10

場　　所　谷部落（奥谷）
黒田勇氏宅横

造立時期　文政７年（1824年）

管 理 者　奥谷中

物件にまつわる話

元は観音堂のところにあったが、昭和８年道路改修のため現在地に移された。

水路の改修、新設により死亡された方を供養すると共に村人の安泰をお祈りしたものである。

常　夜　燈

写真　№10－1
場　　所　谷部落（奥谷）
黒田勇氏宅横
造立時期　昭和３年３月
管 理 者　奥谷中

物件にまつわる話

大正13年初めて電灯が一戸に一灯つき、ランプ生活から一転して明るい生活となる。当時は珍らしい近代施設であり、村人の通行の安全を願ったものであろう。

不動明王

写真　№11
場　　所　谷部落の奥
谷川の不動滝の上
造立時期　寛政４年（1792年）
管 理 者　谷部落中

物件にまつわる話

災害から身を守り財宝をうるなどの功徳（くどく）がある。

この付近には昔大蛇が住んでいたといわれ、不気味な滝の上にお祀りされている。昔は上野へ越すのに難所なところであったが、今は滝の上側に谷と上野を結ぶ林道が完成し自動車で通ることができる。

大乗妙典六十六部日本回国供養塔

写真　№12
場　　所　谷部落の旧馬橋の横
造立時期　宝暦10年（1760年）２月
管 理 者　谷部落

物件にまつわる話

因幡街道として旅人も多く通った道であったが、淋しいところであり、交通の難所でもあった。　旅人の安全と村人等の安泰をお祈りしたもので、隣りには六地蔵をお祀りし、平家の落人（おちうど）を供養したといわれる五輪塔が多数ある。

六　地　蔵

写真　№12－１
場　　所　谷部落の旧馬橋の横
造立時期　江戸時代（1735年）中期
管 理 者　谷部落中

物件にまつわる話

因幡街道（いなばかいどう）として旅人も多く通った道で七里ヶ崎といわれ、昔は淋しい所であった。牛馬の通るのに事故も多く、通行の安全を祈ったものである。

五輪塔　5基

写真　№12－2
場　　所　谷部落旧馬橋の横
造立時期　室町時代中期以降
管 理 者　谷部落中

物件にまつわる話

個人の墓塔か一般の供養塔かわからないが様式からみて室町時代中期以降のものと思われる。

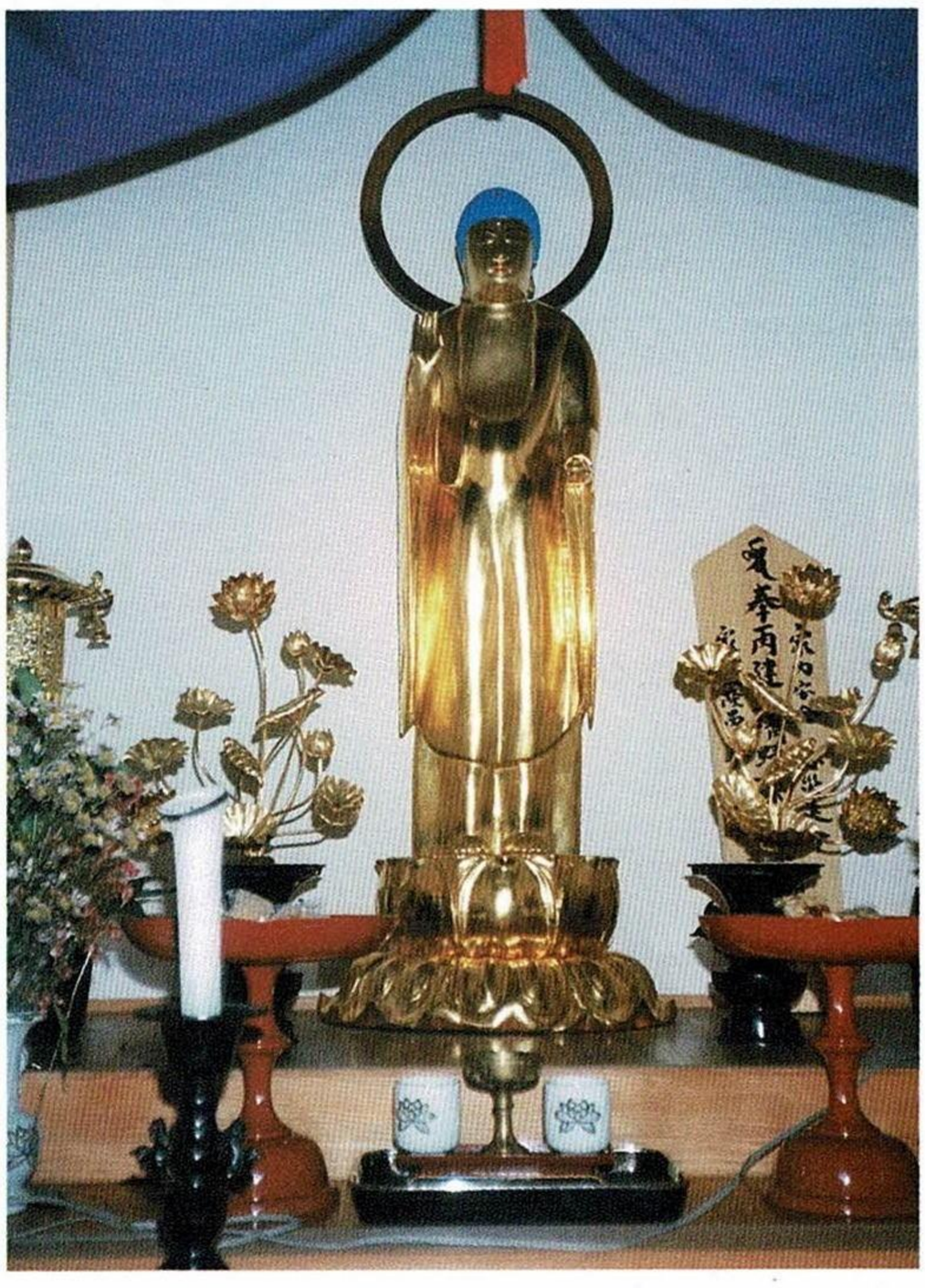
木造薬師如来立像

写真　№13
場　　所　谷部落（溝野）米沢実氏宅の横
建立時期　江戸時代 後期
管 理 者　溝野地区中

物件にまつわる話

歴史では御園（みその）とあるが、時代と共に溝野（みぞの）と呼ぶようになっている。因幡街道筋にて昔は栄えた集落であった。現在は12戸となっているが、薬師さんを信仰して集会の場となっている。

人間のあらゆる病気を治療し、寿命をのばしてくれる仏として信仰される。



三界万霊塔

写真　№13－1
場　　所　谷部落（溝野）
造立時期　文化13年(1816年）10月
管 理 者　溝野地区中

物件にまつわる話

三界(さんがい)万霊の供養塔である。

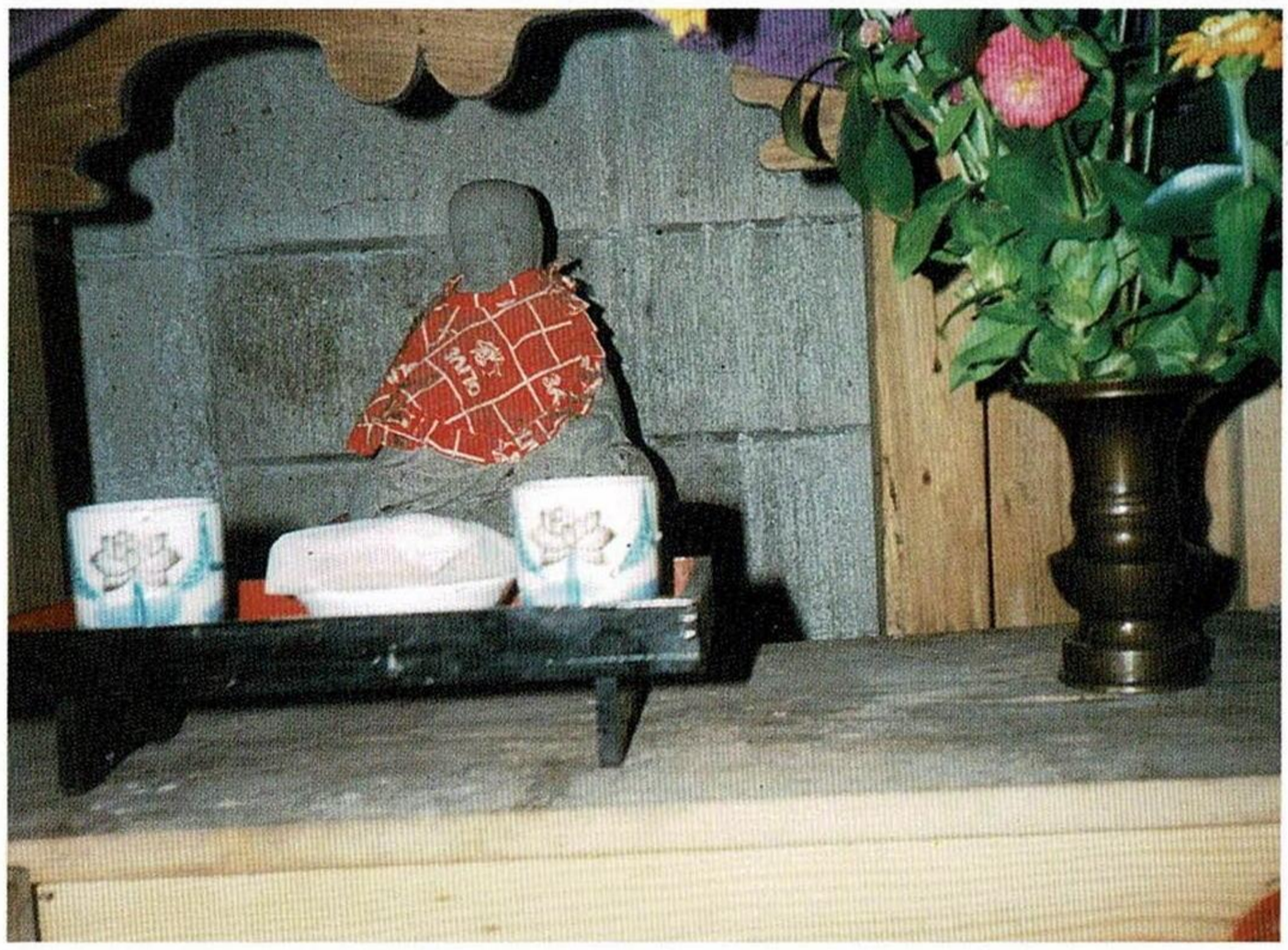
向って右の石物は不明である。

大　師　像

写真　№14
場　　所　谷部落（今市堺）
造立時期　昭和初期
管 理 者　溝野地区中

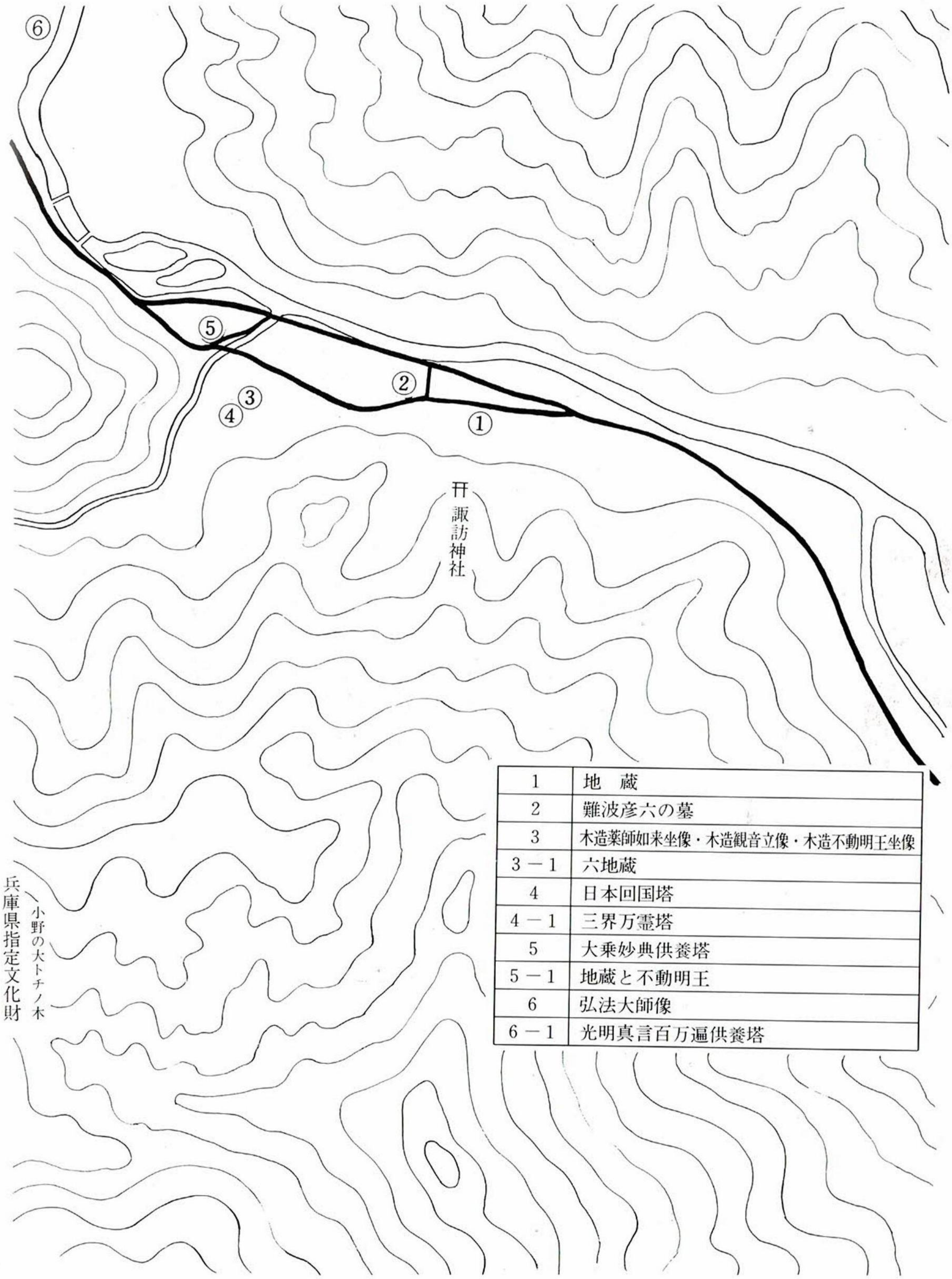
物件にまつわる話

村人の家内安全をお祈りしてお祀りされた。



小　　野

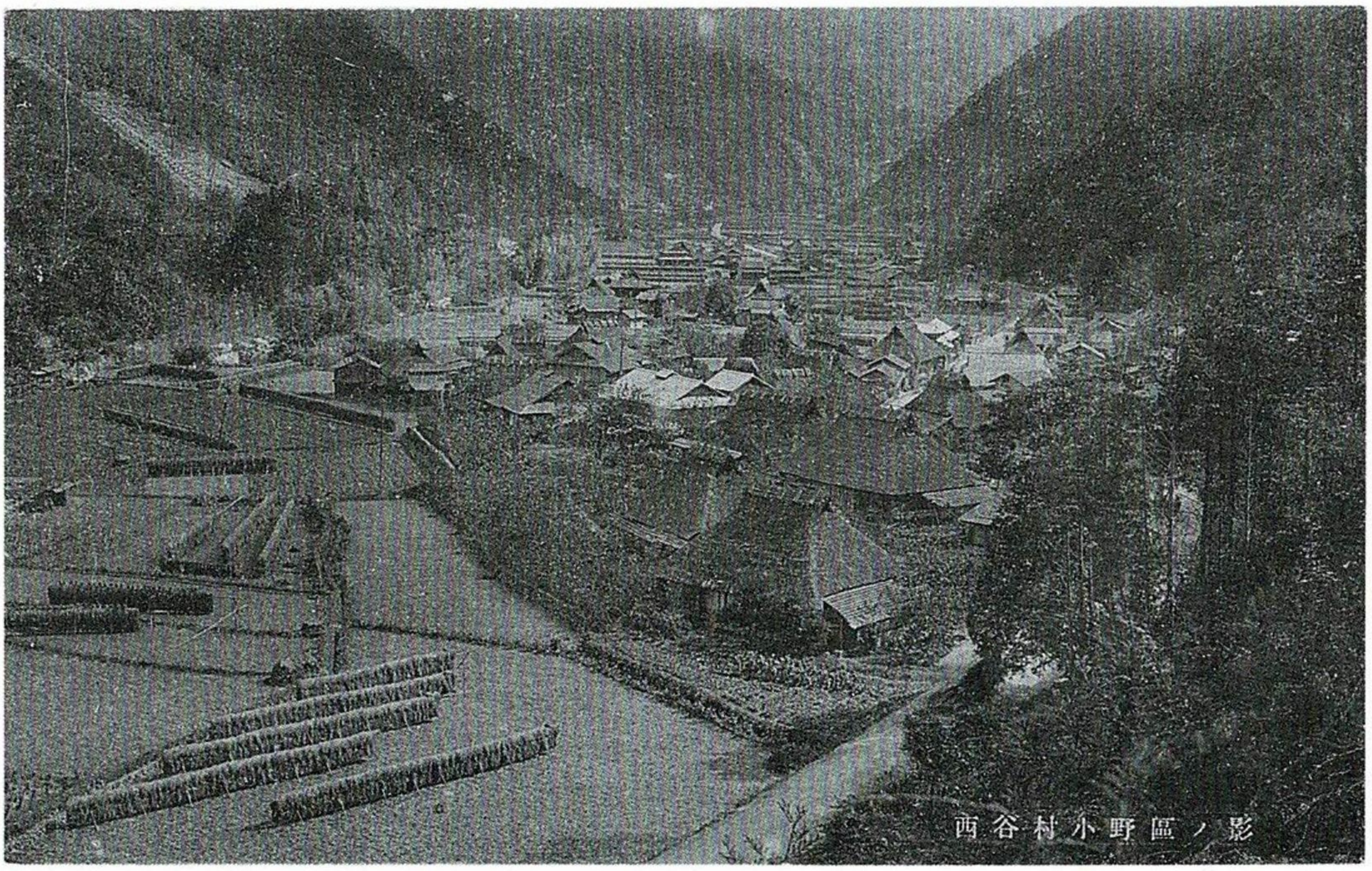
小野地区　所在位置図



1	地　蔵
2	難波彦六の墓
3	木造薬師如来坐像・木造観音立像・木造不動明王坐像
3－1	六地蔵
4	日本回国塔
4－1	三界万霊塔
5	大乗妙典供養塔
5－1	地蔵と不動明王
6	弘法大師像
6－1	光明真言百万遍供養塔

兵庫県指定文化財

小　　野



西谷村小野區ノ影

地　　蔵

写真　No.1
場　　所　イノ谷
旧道より諏訪神社入口
造立時期　文政8酉年(1825年)7月吉日
管 理 者　隣保

難波彦六の墓

写真　No.2
場　　所　小野部落の早
川岩雄氏宅前
造立時期　室町時代中期
(1500年前後)
所 有 者　中岸武市
管 理 者　中岸より

物件にまつわる話

今から約800年前元暦元年（1184年）2月難波彦六は今の長野県諏訪市にある諏訪大社より御分霊を奉迎して来て、産土の神として当地にお祀りをした。難波彦六の墓 宝篋印塔は小野字中道162番地にあったが、大成健五郎氏と中岸武市氏が現在の場所へ移転してお祀りされている。

木造薬師如来坐像・木造観音立像・木像不動明王坐像

写真　№3

場　　所　小野部落の県道上ノ波賀線(深山入口)西川隣保観音堂内

建立時期　宝暦(ほうれき)7年（1757年）11月

所 有 者　小野部落

管 理 者　小野部落

物件にまつわる話

難波勘兵衛と言う人が当主となり、宝暦7年（1757年）に建立(こんりゅう)したのが始まりと伝えられる。最初は観音菩薩だけであったと思われるが後、文化9年（1812年）再建し薬師如来、不動明王等も一緒にまつり、更に、六地蔵さんも合祀されたものと思われる。

六　地　蔵

写真　№3－1

場　　所　小野部落の県道山崎(上ノ)波賀線（深山入口）西川隣保観音堂内

造立時期　最初の造立は江戸時代中期

所 有 者　小野部落

管 理 者　小野部落

物件にまつわる話

最初の造立は江戸時代中期と思われる。

観音堂建立、宝暦7年（1757年）難波勘兵衛当主の頃は別の場所に露天に造立されたものと思われる。

以後観音堂も増改築され、六地蔵も新しく造立し直し、破損を防ぐ為堂内に合祀したものであろう。像は新しく昭和の御代になってからではないだろうか。

日本回国塔

写真　№4
場　　所　小野部落の観
　　音堂の横
造立時期　文化３年(1806年)
所 有 者　小野部落
管 理 者　〃

物件にまつわる話

村人の家内安全を祈願し建てられたといわれる。

三界万霊塔（ばんれいとう）

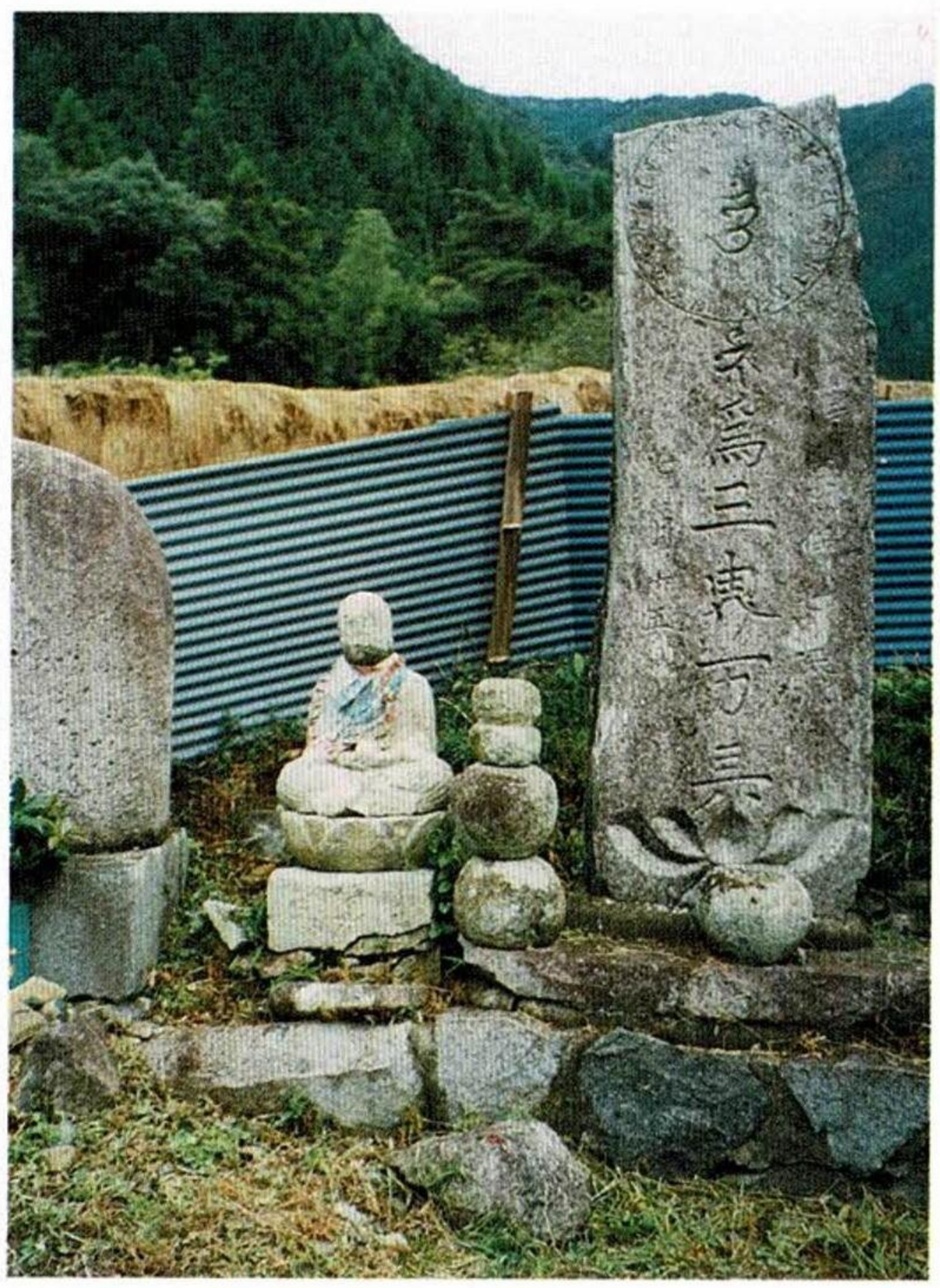


写真　№4－1
場　　所　小野部落の観
　　音堂横
造立時期　享保７年（1722年）
管 理 者　小野部落

物件にまつわる話

三界万物の霊を供養して建てられたと伝えられる。

大乗妙典供養塔（だいじょうみょうてんくようとう）

写真　№5
場　　所　小野部落の中島橋横
造立時期　天明８年（1788年）
管 理 者　中島隣保

物件にまつわる話

谷川を渡るのに丸木橋であり、周辺が高い為谷川に転落する者もあり、その災難になやんでいる時、行者真乗徳門が災難をみかねて供養塔を建て安全を祈願したと言う。

地蔵と不動明王

写真　№5－1
場　　所　小野部落の中島橋横
造立時期　文政11年12月（1828年）
管 理 者　中島隣保

物件にまつわる話

谷川を渡る旅人や村人の安全を祈願して建てられたといわれる。

弘法大師像

写真　№6
場　　所　小野部落の上の方
国道29号線今市橋の手前
造立時期　文政11年（1828年）6月吉日
所 有 者　小野部落
管 理 者　小野部落

物件にまつわる話

世話人 新十良、五右衛門 南無大師遍照金剛と彫ってある。

現在は交通の難所とは思われないが、昔は難所と言うより今市へ渡る橋があり、旅人が迷う所(三辻)であったと思われる。今市地区と間違えられるが、むしろ安賀地区との堺に近い所に立てられている。又、小野部落はここから潅漑用水を引いているので五穀豊穣を祈っての像とも思われる。

光明真言百万遍供養塔

写真　№6－1
場　　所　小野部落の上
今市橋の手前
造立時期　明治6年3月吉日
所 有 者　小野部落
管 理 者　小野部落

物件にまつわる話

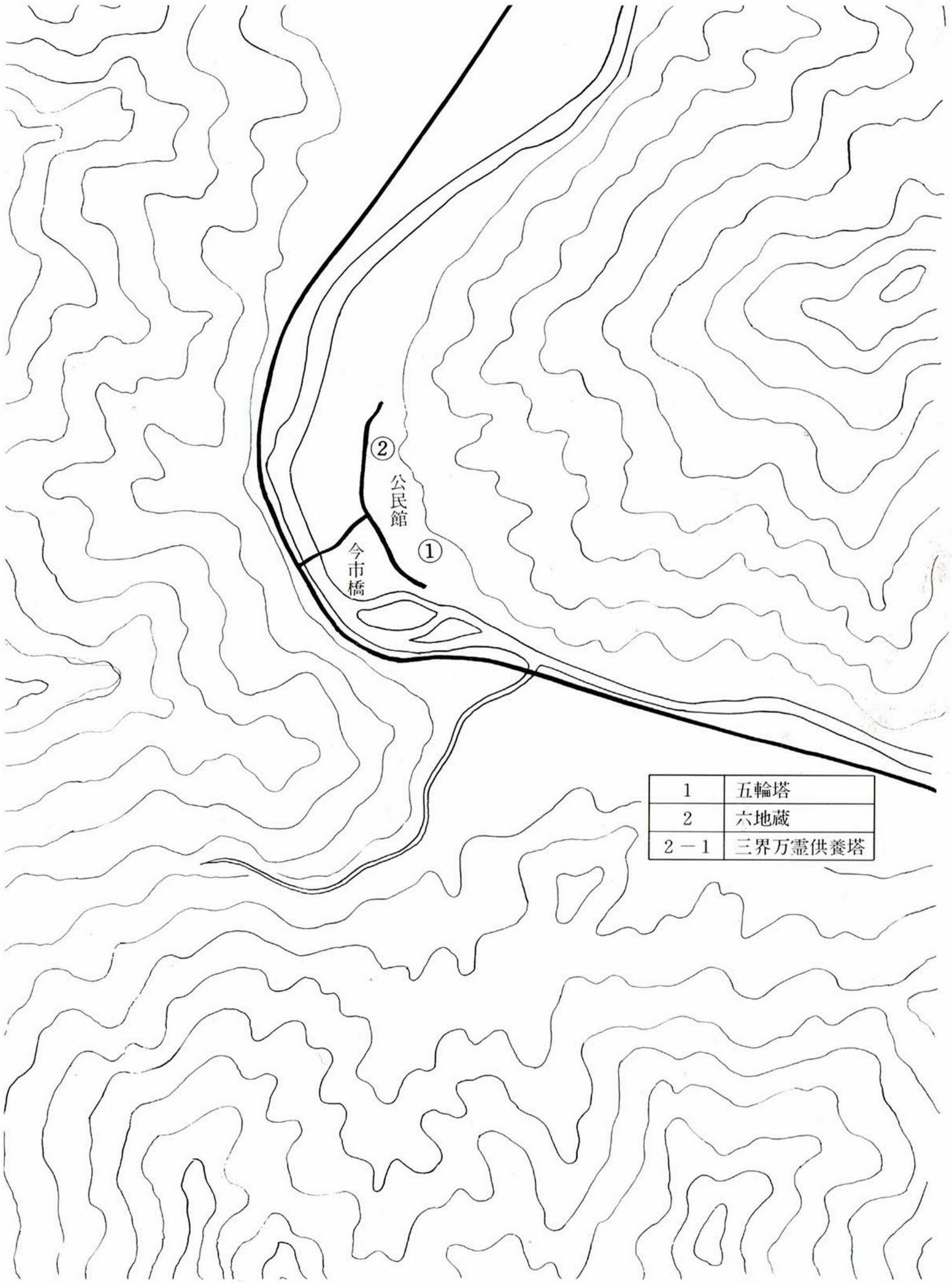
願主 上垣文助

光明真言（真言宗で最も重要な呪句）を百万遍唱えた証の石塔。これを唱えると一切の罪業を除くと言われている。

ここは小野部落潅漑用水の取水口にもなっているので、五穀豊穣を祈願すると共に部落全体の安全を祈願して造立されたものと思われる。隣に地蔵さんも立っている。

今　　市

今市地区　所在位置図



1	五輪塔
2	六地蔵
2－1	三界万霊供養塔

今　　市

五　輪　塔

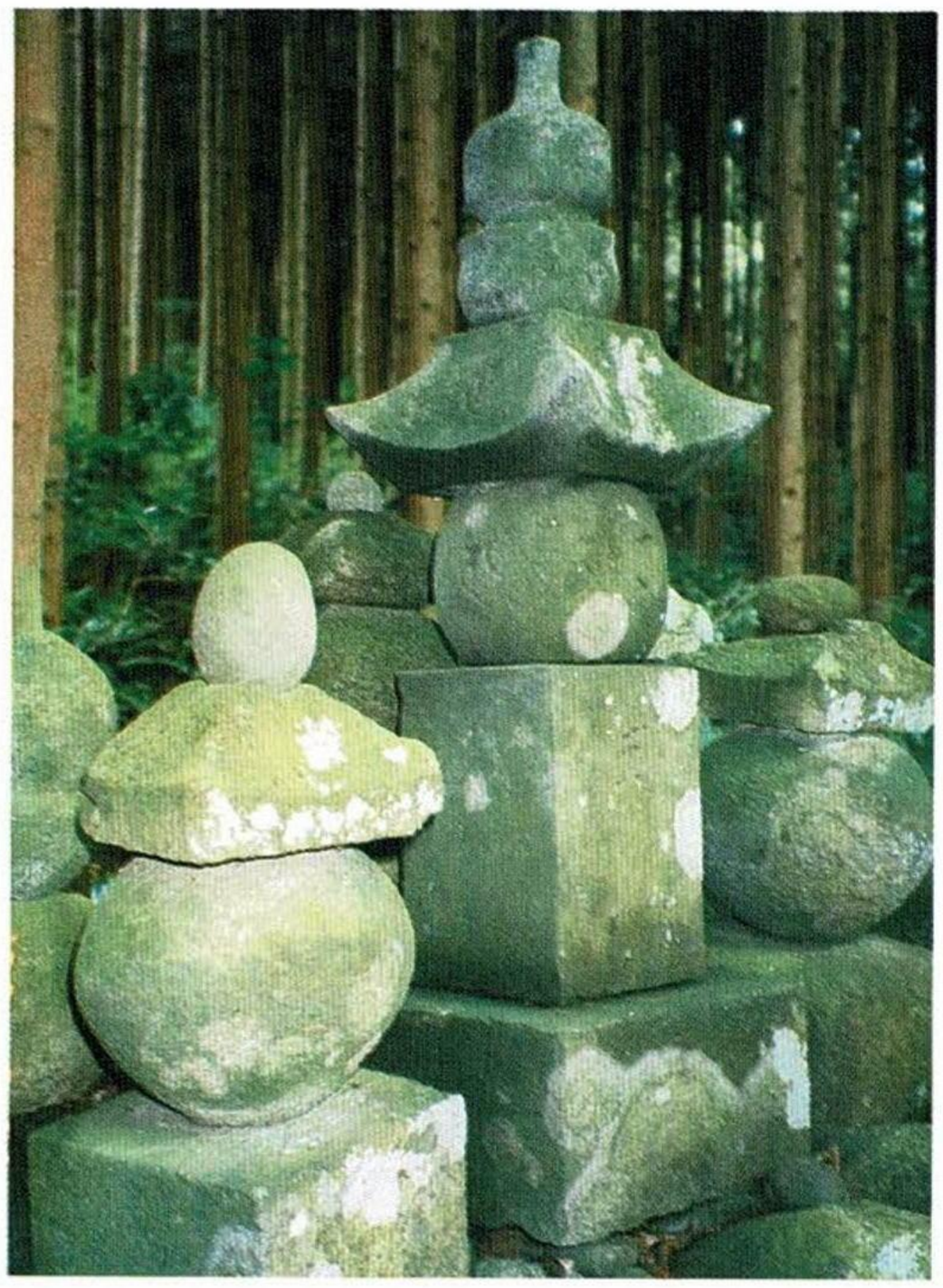


写真　No.1

場　　所　今市部落の中岡武教氏宅裏山

造立時期　天正８年（1580年頃）

管 理 者　中岡武教

物件にまつわる話

天正８年（1580年）秀吉により長水城が落城し、その落人が当地で死亡したといわれ供養しお祀りされている。

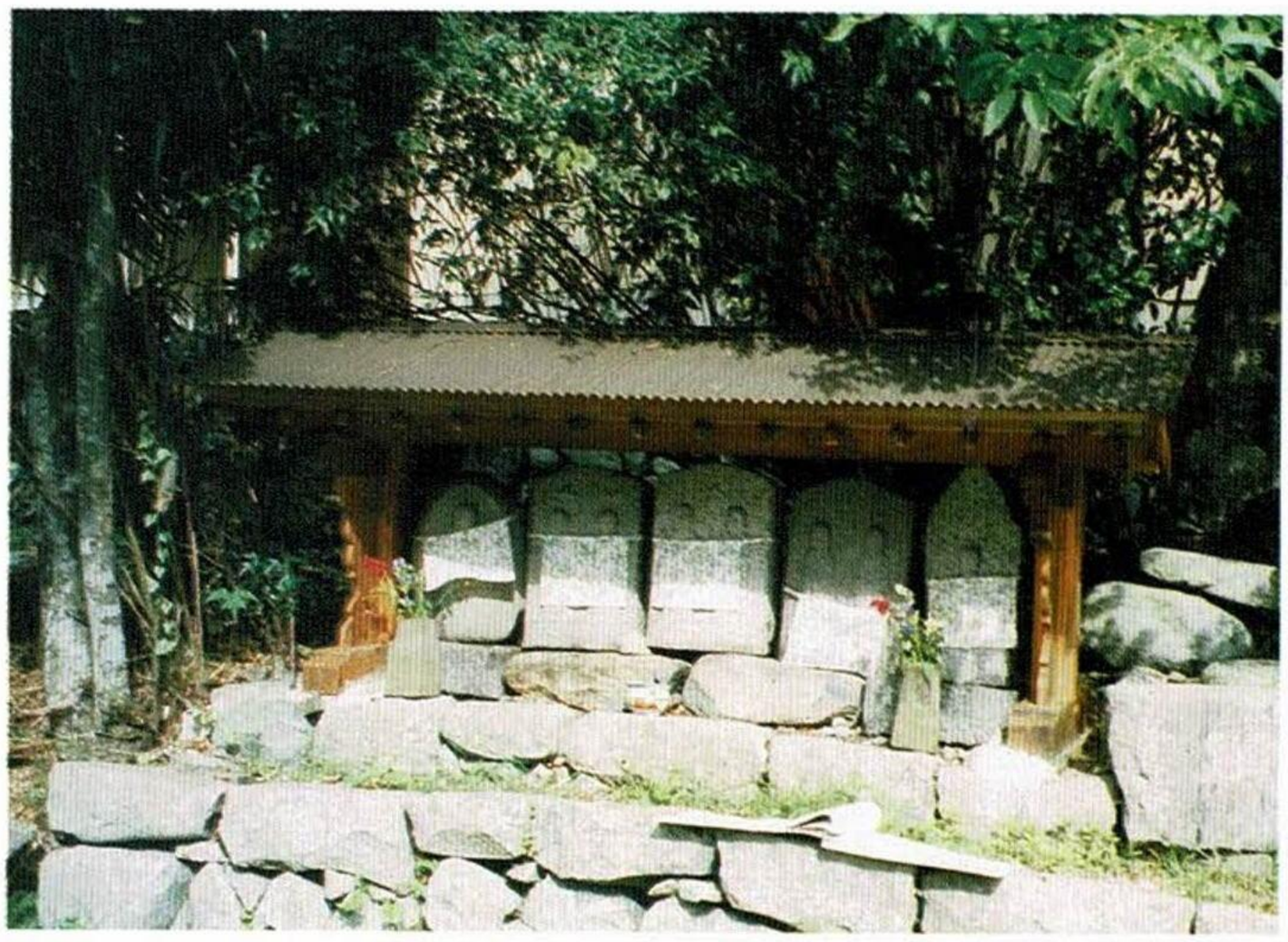
六　地　蔵

写真　No.2

場　　所　今市部落の北の方

造立時期　江戸時代中期

管 理 者　今市部落



物件にまつわる話

因幡街道として旅人も多く、又、昔は市場が開かれた部落である。人の集まる事も多く、通行の安全を祈ったものである。

三界万霊供養塔

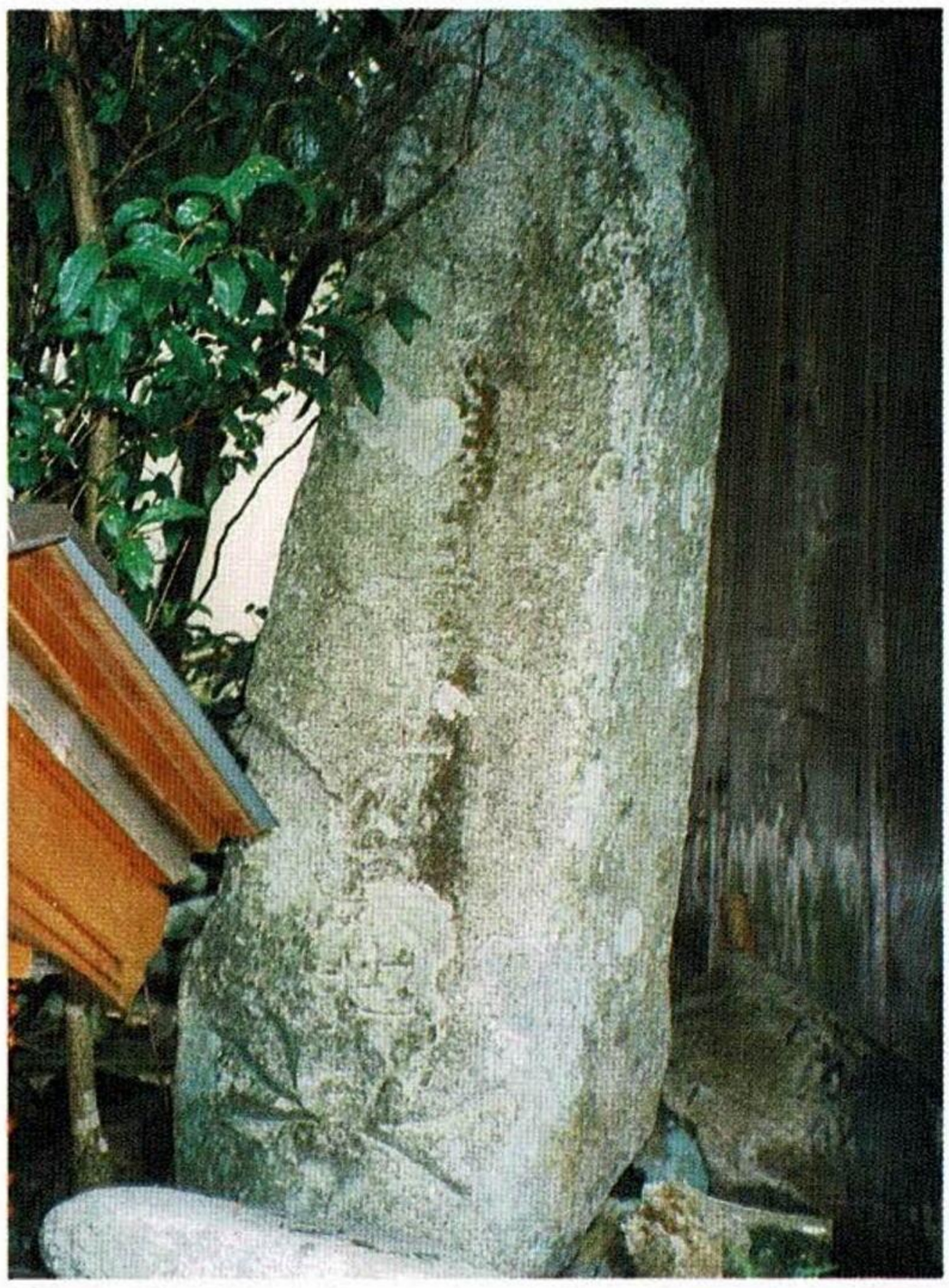


写真　№2－1

場　　所　今市部落の六地蔵の横

建立時期　正徳（しょうとく）5年5月19日（1715年）

管 理 者　今市部落

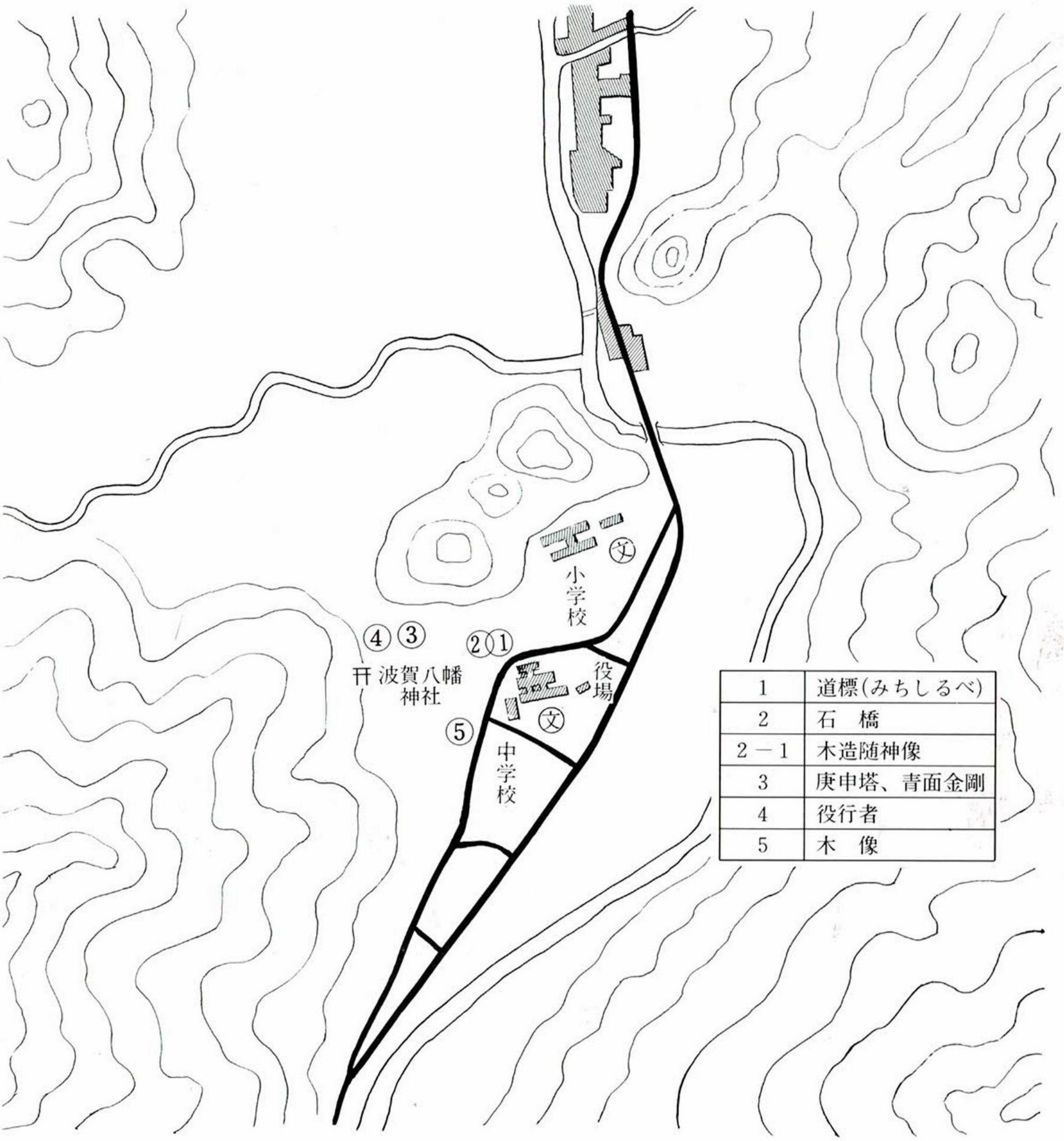
物件にまつわる話

三界とは、一切衆生の生死輪回（りんね）する三種の世界。すなわち、欲界、色界、無色界の三つの総称。また、過去、現在、未来の三世のこともいう。

万物の霊を供養して、村人の安泰を祈願したもの。

安　賀

安賀地区所在位置図



1	道標(みちしるべ)
2	石　橋
2－1	木造随神像
3	庚申塔、青面金剛
4	役行者
5	木　像

安　賀

西谷村安賀區ノ影

道標（みちしるべ）

写真　№1
場　　所　安賀部落の波賀八幡神社鳥居横
建造時期　不明
所 有 者　波賀八幡神社
管 理 者　波賀八幡神社

物件にまつわる話

地元安賀地区の古老宮内竜喜知氏の話（平成３年１月）によると、この「みちしるべ」は明治の中期に今の場所へ移されたものである。旧位置は今の場所より南方約100m のところで、そのころは人や牛がようやく通れる程度の道で、牛の背や人の背で木炭をはじめ食糧品、日用品を運んでいた。そのような道の分れるところに建てられたものの一つであるが、何時ごろ建てられたのか明らかではない。

石　　橋

写真　№2
場　　所　安賀部落の八幡神社入口
建造時期　文政３年（1820年）３月吉日
所 有 者　波賀八幡神社
管 理 者　波賀八幡神社

物件にまつわる話

発起人　当村庄屋　平四良
献石橋氏子中　同　役人中
とあるが、由来は詳（つまびら）かでない。

木造随神像（ずいじんぞう）

写真　№2－1

場　　所　安賀部落の八幡神社境内

建立時期　天保13年（1842年）

所 有 者　波賀八幡神社

管 理 者　〃

物件にまつわる話

像高82cm（右側）

○玉眼、彩色

面部がはがれ内部に「天保十三年、大仏師重吉」とある。

左側については未調査。

庚申塔（こうしんとう）、青面金剛（しょうめんこんごう）

写真　№3

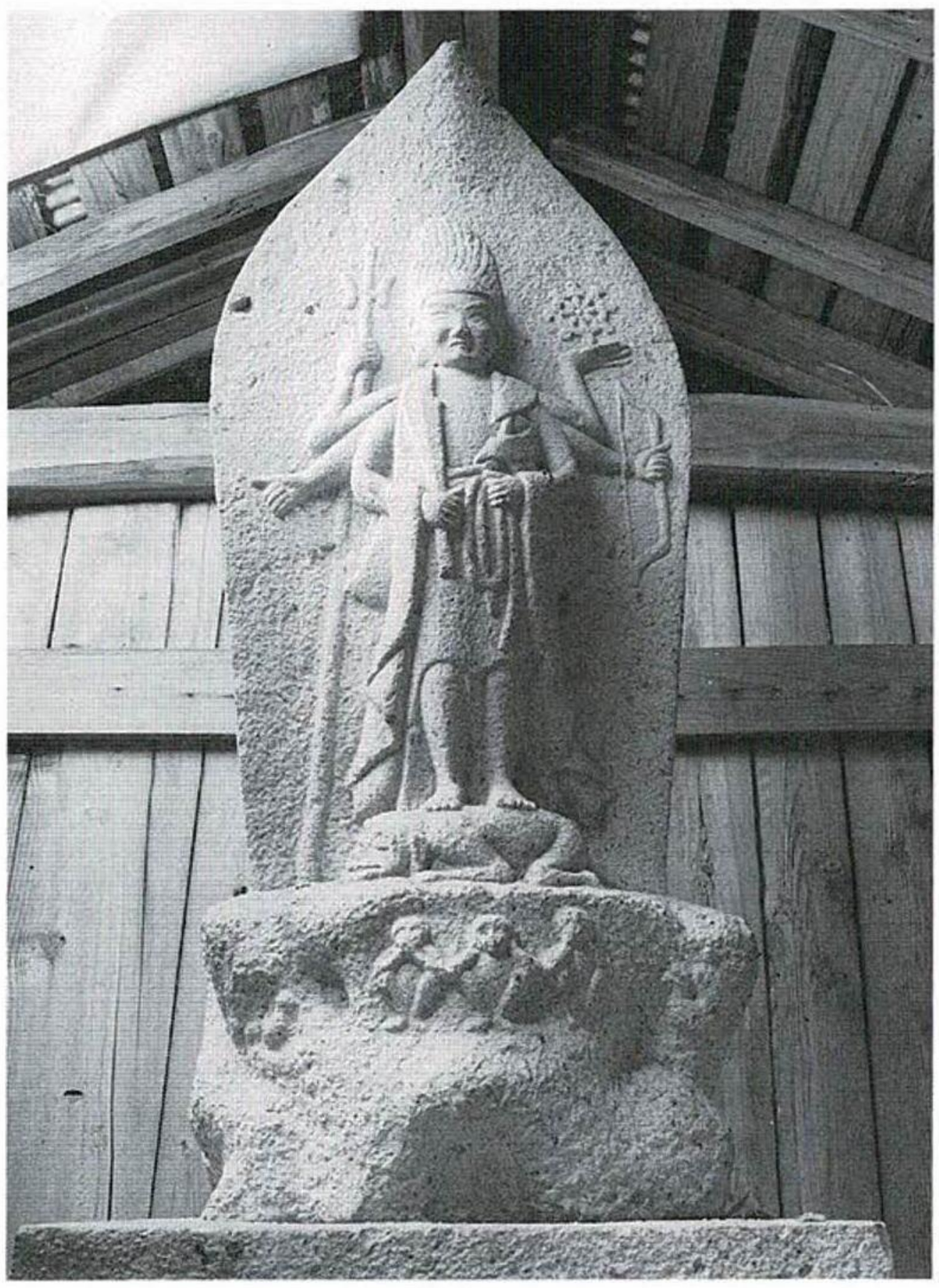
場　　所　安賀部落の八幡神社南旧道宮坂の庚申堂

造立時期　明和四年亥（い）四月（1767年）

管 理 者　安賀区長

物件にまつわる話

安賀山周辺、友山、斉木名古城山等の砂鉄採取。又、旧因幡道中に位置し、死者、無縁仏等多数の供養及び土木地鎮、牛馬、養蚕等、家内安全、無病息災祈願のため、安賀村庚申講連中により奉斉（ほうさい）されたものと思われる。



役行者（えんのぎょうじゃ）

写真　No.4

場　　所　安賀部落の小谷山奥の院（行者山ともいう）の見晴らしの良い丘にあり、70数段の石段が残っている。

造立時期　元禄5年（1693年）

管 理 者　小谷泰三

物件にまつわる話

小谷泰三さん宅に安置お祭りしてある木像等と関連があると思われる。(元禄5年聖護院御門跡御来寺改帳坂書記録、南光坊瑠璃寺（るりじ）)

以前の石像とされ歴代の「法印さん」とよばれる人によってお守り祀られ、最新の法印さんは「仙宝院智観法印」明治31年没とあり、お堂跡等もあり元禄年間から明治時代まで大勢（おおぜい）の信者が参拝していたといわれている。

木　　像

写真　No.5

場　　所　安賀部落の小谷泰三氏宅

建立時期　不明であるが推定元禄以前

管 理 者　小谷泰三

物件にまつわる話

元禄の昔（約300年前）に 法印さん と呼ばれた。その時代の指導者のような人があって、三ヶ所程の信仰の場所の一か所が安賀小谷山（行者山）であったといわれていて、小谷泰三氏宅に安置されている。この木像も、その当時祀られていたと伝えられ（この他にも古文書（もんじょ）、法螺（ほら）貝等が伝えられていたが今は散逸している）

大勢の信者が参拝祈願していたようで、小谷さん宅には元禄15年5月12日〝権大僧都法印仙宝院〟の位牌（いはい）の他歴代の法印さんの位牌が祀られている。